



バーコードスキャナー1504/1504A
設定リファレンスマニュアル

設定バーコード付記

Ver.JP1.00



本リファレンスマニュアルは、“1504 Series Scanner User Guide, Ver.1.16”に基づいています。

Copyright © 2017 CIPHERLAB CO., LTD.

無断転用禁止

ソフトウェアには CIPHERLAB CO., LTD.の機密情報が含まれています。この情報は使用および開示制限を含めライセンス契約に従って提供されており、また著作権法により保護されています。ソフトウェアのリバースエンジニアリングは禁じられています。

製品開発は途切れることなく行われているため、この情報は事前の通知なしに変更されることがあります。本書に含まれる情報と知的所有権は CIPHERLAB とクライアント間で機密とされ、CIPHERLAB CO., LTD.に帰属する独占的財産と見なされます。文書に何らかの問題が見つかった場合、書面にて当社に報告してください。CIPHERLAB は、本文書に間違いがないことを保証しません。

本出版物のいかなる部分も、CIPHERLAB CO., LTD.の書面による事前の許可なしには、いかなる条件下でも、また電子的、機械的、写真複写、録音、その他のいかなる手段によっても、コピー、検索システムへの記憶、または送信を行うことができません。

製品のコンサルタント業務とサポートについては、地域の販売代理店にお問い合わせください。また、当社の Web サイトで詳細を見ることもできます。

CipherLab ロゴは、CIPHERLAB CO., LTD.の登録商標です。

すべてのブランド、製品・サービス、および商標名はそれぞれの登録名義人の資産です。

編集でこれらの名前を使用しているのは識別および所有者の利益を目的とするもので、侵害の意図はありません。

CIPHERLAB CO., LTD.

Web サイト: <http://www.cipherlab.com>

目次

はじめに.....	1
サポートされるシンボル体系.....	1
クイックスタート.....	5
設定モードに入る.....	7
設定モードを終了する.....	7
デフォルト設定.....	7
ユーザー設定をデフォルトとして保存する.....	7
ユーザーデフォルトに戻す.....	8
システムデフォルトに戻す.....	8
セットアップバーコードを読み取る.....	8
パラメータの設定.....	8
現在の設定をリスト表示.....	12
ワンスキャンセットアップバーコードの作成.....	15
1D ワンスキャンバーコード.....	15
2D ワンスキャンバーコード.....	15
バーコードスキャナーを使う.....	17
1.1 電源 ON.....	18
1.2 送信バッファ.....	18
1.3 LED インジケータ.....	19
1.3.1 グッドリード LED.....	19
1.3.2 グッドリード LED 持続時間.....	19
1.4 ビープ音.....	20
1.4.1 ビープ音量.....	20
1.4.2 グッドリードビープ音.....	21
1.5 「NR」をホストに送信.....	22
1.6 スキャンモード.....	23
1.6.1 テストモード.....	23
1.6.2 レーザーモード.....	24
1.6.3 自動 OFF モード.....	24
1.6.4 自動電源 OFF モード.....	24
1.6.5 エイミングモード.....	25
1.6.6 マルチバーコードモード.....	25
1.6.7 プレゼンテーションモード.....	26
1.7 スキャンタイムアウト.....	27
1.8 再読み取り間の間隔.....	27
1.9 読み取り冗長性(1D).....	28
1.10 UPC/EAN バーコード用の Addon セキュリティ.....	29
1.11 オートセンスモード.....	30

1.11.1 1504 の場合	30
1.11.2 1504A の場合	30
1.12 反転バーコード	31
1.13 ケーブル自動判別	32
1.14 ピックリストモード	32
1.15 携帯電話/ディスプレイモード	33
1.16 照明輝度	33
出力インターフェースを選択する	35
2.1 キーボードウエッジ	36
2.1.1 キーボードウエッジをアクティブにし、キーボードタイプを選択する	36
2.1.2 キーボード設定	38
2.1.3 キャラクター間転送間隔	45
2.1.4 ファンクションコード間転送間隔	45
2.1.5 特殊キーボード	45
2.3 ダイレクト USB HID	51
2.3.1 USB HID をアクティブにし、キーボードタイプを選択する	51
2.3.2 キーボード設定	53
2.3.3 キャラクター間転送間隔	59
2.3.4 ファンクションコード間転送間隔	59
2.3.5 HID 文字送信モード	59
2.3.6 特殊キー	60
2.3.7 UTF8 変換 (1504A のみ)	60
2.4 ダイレクト USB Virtual COM	61
2.4.1 USB Virtual COM をアクティブにする	61
2.4.2 ファンクションコード間転送間隔	61
2.4.3 ACK/NAK タイムアウト	61
2.5 ダイレクト USB VCOM_CDC	62
2.5.1 USB VCOM_CDC をアクティブにする	62
2.5.2 ファンクションコード間転送間隔	62
2.4.3 ACK/NAK タイムアウト	63
シンボル体系の設定を変更する	65
3.1 Codabar	66
3.1.1 スタート/ストップ文字の送信	66
3.1.2 CLSI 変換	66
3.1.3 コード長必要条件	67
3.2 Code 25 – Industrial 25	68
3.2.1 コード長必要条件	68
3.3 Code 25 – Interleaved 25	69
3.3.1 チェックデジットを確認する	69
3.3.2 チェックデジットを送信する	69
3.3.3 EAN-13 に変換する	70
3.3.4 コード長必要条件	70
3.4 コード 25 – Matrix 25	71

3.4.1	チェックデジットを確認する.....	71
3.4.2	チェックデジットを送信する.....	71
3.4.3	コード長必要条件	72
3.5	コード 25 – Chinese 25.....	73
3.6	Italian Pharmacode (Code 32).....	73
3.7	Code 39.....	74
3.7.1	チェックデジットを確認する.....	74
3.7.2	チェックデジットを送信する.....	74
3.7.3	標準/Full ASCII (フルアスキー) Code 39.....	74
3.7.4	コード長必要条件	75
3.8	Trioptic Code 39.....	76
3.9	Code 93.....	76
3.9.1	コード長必要条件	76
3.10	Code 128.....	77
3.11	GS1-128 (EAN-128).....	77
3.11.1	Code ID を送信する.....	78
3.11.2	フィールド区切り文字(GS 文字).....	78
3.11.3	GS1 フォーマット.....	78
3.11.4	アプリケーション識別子.....	79
3.12	ISBT 128.....	80
3.12.1	ISBT 連結.....	80
3.12.2	ISBT 連結冗長性.....	81
3.13	GS1 DataBar (RSS ファミリー).....	82
3.13.1	Code ID を選択する.....	82
3.13.2	GS1 DataBar Omnidirectional (データバー標準型)(RSS-14).....	83
3.13.3	GS1 DataBar Expanded (データバー拡張型) (RSS 拡張型).....	84
3.13.4	GS1 DataBar Limited (データバー限定型) (RSS 限定型).....	85
3.13.5	UPC/EAN に変換する.....	86
3.13.6	フィールド区切り文字(GS 文字).....	86
3.13.7	アプリケーション識別子.....	87
3.14	MSI.....	88
3.14.1	チェックデジットを確認する.....	88
3.14.2	チェックデジットを送信する.....	88
3.14.3	コード長必要条件.....	89
3.15	EAN-8.....	90
3.15.1	チェックデジットを送信する.....	90
3.16	EAN-13.....	91
3.16.1	ISBN に変換する.....	92
3.16.2	ISSN に変換する.....	92
3.16.3	チェックデジットを送信する.....	92
3.17	UCC Coupon 拡張型コード.....	93
3.18	UPC-A.....	93
3.18.1	EAN-13 に変換する.....	94

3.18.2 システム番号を送信する	94
3.18.3 チェックデジットを送信する	94
3.19 UPC-E.....	95
3.19.1 システム番号を選択する	95
3.19.2 UPC-A に変換する.....	96
3.19.3 システム番号を送信する	96
3.19.4 チェックデジットを送信する	96
3.20 Code 11	97
3.20.1 チェックデジットを確認する	97
3.20.2 チェックデジットを送信する	97
3.20.3 コード長必要条件	98
3.21 Composite Code(コンポジットコード)	99
3.21.1 Composite CC-A/B	99
3.21.2 Composite CC-C.....	99
3.21.3 Composite TLC-39.....	100
3.21.4 UPC Composite モード.....	100
3.21.5 UCC/EAN Composite Code 用の GS1-128 エミュレーションモード	101
3.21.6 フィールド区切り文字(GS 文字)	101
3.21.7 アプリケーション識別子.....	101
3.22 US Postal コード.....	102
3.22.1 US Postnet.....	102
3.22.2 US Planet	102
3.22.3 チェックデジットを送信する	102
3.23 UK Postal コード.....	103
3.23.1 UK Postal	103
3.23.2 チェックデジットを送信する	103
3.24 その他の郵便番号	103
3.24.1 日本郵便.....	103
3.24.2 Australian Postal	103
3.24.3 Dutch Postal	104
3.24.4 USPS 4CB/1 コード/インテリジェントメール	104
3.24.5 UPU FICS Postal.....	104
3.25 2D シンボル体系.....	105
3.25.1 PDF417.....	105
3.25.2 MicroPDF417	105
3.25.3 Data Matrix	106
3.25.4 マキシコード.....	107
3.25.5 QR コード	109
3.25.6 MicroQR.....	110
3.25.7 Aztec.....	110
3.26 Macro PDF.....	111
3.26.1 送信/デコードモード	111
3.26.2 エスケープキャラクター	112
3.26.3 コントロールヘッダーを送信する	112

出力フォーマットを定義する	113
4.1 大文字・小文字の区別	113
4.2 文字置換	114
4.2.1 文字置換のセットを選択する	114
4.2.2 文字置換用のシンボル体系 (3 セットすべて)	115
4.3 プリフィックス/サフィックスコード	127
4.4 Code ID	128
4.4.1 定義済み Code ID の選択	128
4.4.2 Code ID を変更する	131
4.4.3 Code ID 設定を消去する	134
4.5 長さコード	135
4.6 マルチバーコードエディタ	145
4.6.1 バーコードの連結を編集する	146
4.6.2 バーコードの連結をアクティブにする	148
4.7 特定文字の削除	149
4.8 AIM Code ID	149
データ編集用のフォーマットを適用する	150
5.1 編集フォーマットをアクティブにする	151
5.1.1 編集フォーマットをアクティブにする	151
5.1.2 排他的データ編集	152
5.2 編集フォーマットを設定する方法	153
5.3 フォーマットを設定する – データ基準の定義	156
5.3.2 データ長	168
5.3.3 一致する文字列と位置	168
5.4 フォーマットを設定する – データフィールドの定義	169
5.4.1 開始位置	169
5.4.2 フィールド調整	169
5.4.3 フィールド総数	170
5.4.4 フィールド設定	171
5.4.5 休止フィールド設定	176
5.5 フォーマットを設定する – 送信シーケンスの定義	177
5.6 プログラミング例	179
5.6.1 例 I	179
5.6.2 例 II	179
ファームウェアのアップグレード	181
RS232 を使う	181
ホストシリアルコマンド	185
シリアルコマンド	185
例	187
キーボードウェッジ表	189
キータイプ およびステータス	191

キータイプ	191
キーステータス	191
例	192
N 進法	193
10 進法	193
16 進法	194
ASCII 表	196
キーボードタイプ ワンスキャン	197
キーボードウエッジ	197
ダイレクト USB HID	201

はじめに

サポートされるシンボル体系

以下に一覧するように、ほとんどの汎用バーコードシンボルがサポートされており、それぞれを個別に有効または無効にできます。スキャナーは有効にされたすべてのシンボル体系を自動的に識別し、確認できます。各シンボル体系について詳しくは、[第3章 シンボル体系の設定を変更する](#)を参照してください。

サポートされるシンボル体系: 有効/無効		デフォルト	
Codabar		有効	
Code 93		有効	
MSI			無効
Code 128	Code 128	有効	
	GS1-128 (EAN-128)	有効	
	ISBT 128	有効	
Code 2 of 5	Industrial 25	有効	
	Interleaved 25	有効	
	Matrix 25		無効
	Chinese 25		無効
Code 3 of 9	Code 39	有効	
	Italian Pharmacode		無効
	Trioptic Code 39		無効
EAN/UPC	EAN-8	有効	
	EAN-8 Addon 2		無効
	EAN-8 Addon 5		無効
	EAN-13	有効	
	EAN-13 & UPC-A Addon 2		無効
	EAN-13 & UPC-A Addon 5		無効
	ISBN		無効
	UPC-E0	有効	



	UPC-E1		無効
	UPC-E Addon 2		無効
	UPC-E Addon 5		無効
	UPC-A	有効	
GS1 DataBar(データバー) (RSS)	GS1 DataBar Omnidirectional (データバー標準型)(RSS-14)		無効
	GS1 DataBar Truncated (データバー切詰型)		無効
	GS1 DataBar Stacked (データバー二層型)		無効
	GS1 DataBar Stacked Omnidirectional (データバー標準二層型)		無効
	GS1 DataBar Limited (データバー限定型) (RSS 限定型)		無効
	GS1 DataBar Expanded (データバー拡張型) (RSS 拡張型)		無効
	GS1 DataBar Expanded Stacked (データバー拡張二層型)		無効
Code 11			無効
Composite コード	Composite CC-A/B		無効
	Composite CC-C		無効
	Composite TLC-39		無効
郵便番号	US Postnet	有効	
	US Planet	有効	
	UK Postal	有効	
	日本郵便	有効	
	Australian Postal	有効	
	Dutch Postal	有効	
	USPS 4CB/1 コード/インテリジェントメール		無効
	UPU FICS Postal		無効
2D シンボル体系	PDF417	有効	
	MicroPDF417		無効
	Data Matrix	有効	
	Maxicode	有効	
	QR Code	有効	



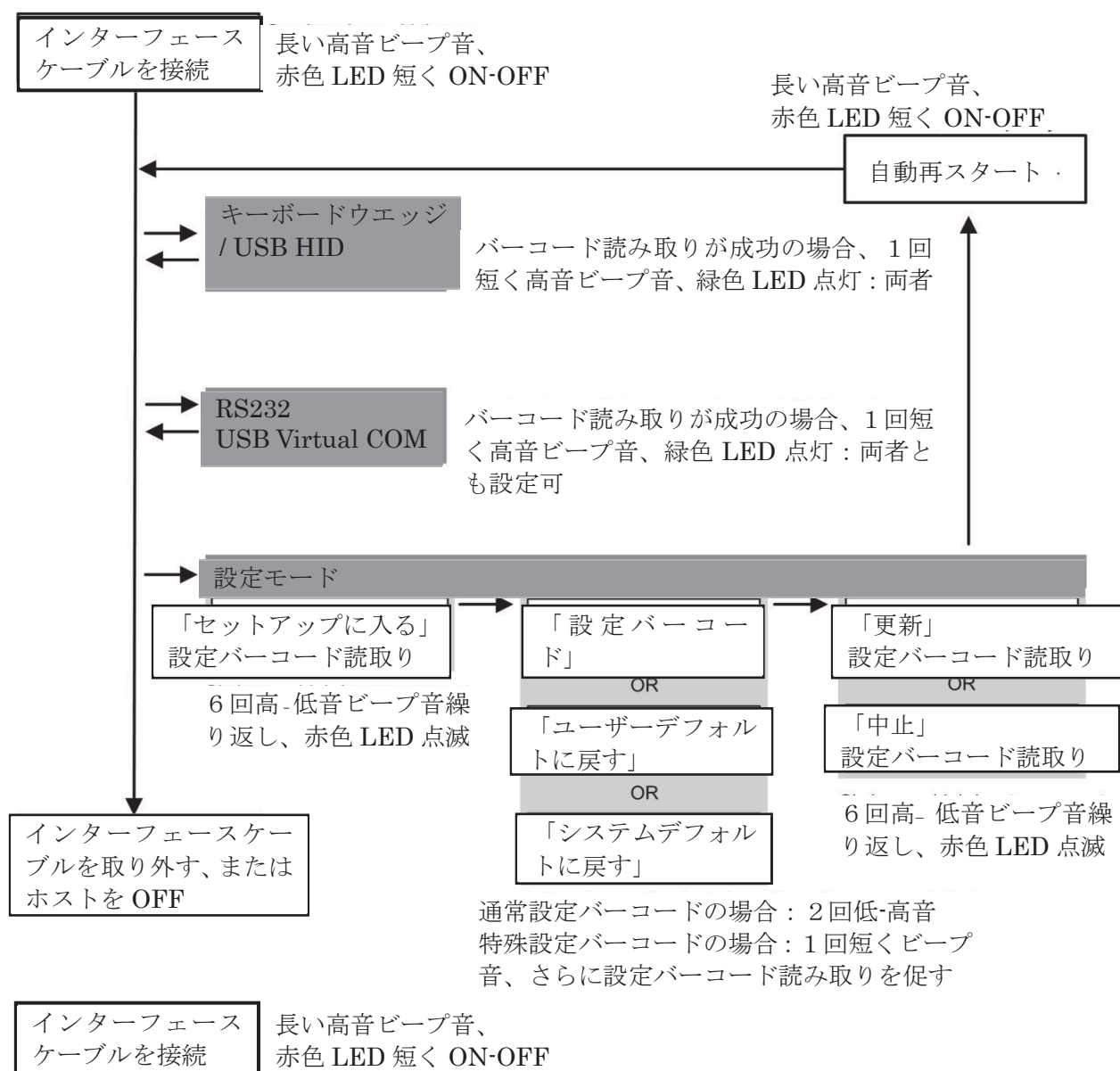
	MicroQR	有効	
	Aztec	有効	



クイックスタート

スキャナーの設定は本マニュアルに記載のセットアップバーコードを読むことで、または *ScanMaster* ソフトウェアを通して行うことができます。本セクションでは、セットアップバーコードを読むことでスキャナーを読み取る設定手順について説明し、デモンストレーションの例をいくつか紹介しています。

注記：RS-232 又は USB Virtual COM をインターフェースとして選択している場合には、ホストはシリアルコマンドをダイレクトにスキャナーに転送して設定できます。例えば *HyperTerminal.exe* を実行して設定コマンドを転送できます。[付表2ホストシリアルコマンド](#)を参照。



注記: 出力インターフェースとして RS-232、USB Virtual COM または BT SPP が選択されている場合、ホストはスキャナーを設定するためにシリアルコマンドを直接送信することが出来ます。例えば、HyperTerminal.exe などを実行し、各セットアップバーコードの下にある 6 桁のコマンドを入力します。[付表 II ホストシリアルコマンド](#)を参照してください。



設定モードに入る

スキャナーが設定モードに入るには、スキャナーに「セットアップに入る」バーコードを読み取らせます。このコードは、本マニュアルのほとんどすべての偶数ページの下部にあります。

- ▶ スキャナーは 6 回のビープ音を返し、LED インジケータがバーコードを読み取った後に赤色に点滅し始めます。

セットアップに入る



スキャナーのパラメータを設定する場合、以下の「セットアップバーコードを読む」をご覧ください。

設定モードを終了する

スキャナーが設定を保存し、設定モードを終了するためには、スキャナーに「更新」バーコードを読み取らせません。このコードは、本マニュアルのほとんどすべての奇数ページの下部にあります。変更を保存せずに設定モードを終了したい場合、「中止」バーコードを読み取らせてください。

- ▶ 「セットアップに入る」バーコードを読み取るときのように、スキャナーは 6 回のビープ音を返し、LED インジケータがバーコードを読み取った後に赤色に点滅し始めます。数秒待つと、スキャナーが自動的に再起動します。

更新



109999

中止



109998

デフォルト設定

ユーザー設定をデフォルトとして保存する

ユーザーデフォルトとしてカスタマイズされた設定を保存するには、スキャナーに「ユーザーデフォルトとして保存」バーコードを読み取らせません。これは通常のセットアップバーコードで、スキャナーは 2 回のビープ音(低-高トーン)を返します。

- ▶ 「更新」バーコードを読取った後、現在の設定はユーザーデフォルトとして保存されます。

ユーザーデフォルトとして
保存



109986



更新

ユーザーデフォルトに戻す

先に保存したユーザーデフォルトに戻すには、スキャナーに「ユーザーデフォルトに戻す」バーコードを読み取らせる必要があります。これは通常のセットアップバーコードで、スキャナーは 2 回のビープ音(低-高トーン)を返します。

- ▶ 「更新」バーコードを読み取った後、スキャナーのすべてのパラメータはカスタマイズされた値に戻ります。

ユーザーデフォルトに戻す



109987

システムデフォルトに戻す

工場出荷時のデフォルトに戻すには、スキャナーに「システムデフォルトの復元」バーコードを読み取らせませす。これは通常のセットアップバーコードで、スキャナーは 2 回のビープ音(低-高トーン)を返します。クレードルを

- ▶ 「更新」バーコードを読み取った後、スキャナーのすべてのパラメータはデフォルト値に戻ります。現在の接続記録も消去されます。

システムデフォルトに戻す



109993

注記: 各設定に対してシステムデフォルト値があれば、アスタリスク「*」で示されます。

セットアップバーコードを読み取る

パラメータの設定

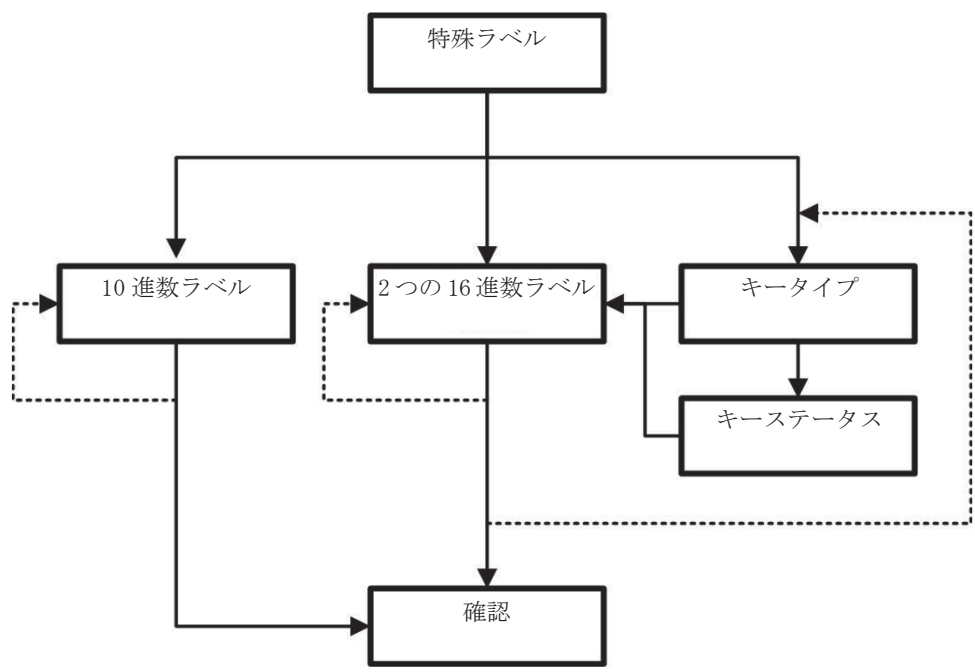
ほとんどのスキャナーパラメータの場合、新しい値に設定するには 1 回の読み取りだけで可能ですそれぞれのパラメータが正常に設定されると、スキャナーは 2 回のビープ音(低-高トーン)を返します。

しかし、他のある特殊パラメータの場合、設定を完了するにはさらに複数の読み取りが必要となる場合があります。この場合、スキャナーは短いビープ音を返し、さらに多くのセットアップバーコードを読み取る必要があることを示します。これらの特殊パラメータは以下の、1つ以上のセットアップバーコードを読み取る必要があります。

- ▶ 数字バーコード、例えば、キーボードタイプ、キャラクター間転送間隔、長さの必要条件
- ▶ 16 進法のバーコード、例えば、プリフィックス、サフィックスなどの文字列
- ▶ 「BT HID」、「USB HID」、「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、キータイプとキーステータスが適用されます。キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを変更するかどうかを決定します。

これらの特殊パラメータの設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。スキャナーは 2 回のビープ音(低-高トーン)を返し入力値が確認されたことを示します。





以下の例は、後でユーザーデフォルト戻せるように、「ユーザーデフォルト」として設定を保存する方法を示しています。

ステップ	アクション	成功した場合のユーザーフィードバック
1	スキャナーの電源を ON にする...	スキャナーは 1 回の長いビープ音(高いトーン)を返し、その LED インジケータは赤色に点灯してすぐに消えます。
2	設定モードに入る... セットアップに入る	スキャナーは 6 回のビープ音(高-低のトーンが 3 回繰り返される)を返し、LED インジケータが赤色に点滅します。
3	セットアップバーコードを読む... 例: * Industrial を有効にする 25 ユーザーデフォルトとして保存	通常のセットアップバーコードを読み取っている場合、スキャナーは 2 回のビープ音(低-高トーン)を返します。

4 設定モードを終了する...

「設定モードに入る」と同じです。

更新



109999

または

中止



109998

5 スキャナーは自動的に再起動します...

「スキャナーの電源を ON にする」と同じ

* 設定エラーが発生したとき...

スキャナーは 1 回の長いビープ音(低いトーン)を返します。

以下の例は、数値パラメータの設定方法を示しています。

ステップ アクション

成功した場合のユーザーフィードバック

1 スキャナーの電源を ON にする...

スキャナーは 1 回の長いビープ音(高いトーン)を返し、その LED インジケータは赤色に点灯してすぐに消えます。

2 設定モードに入る...
セットアップに入る

スキャナーは 6 回のビープ音(高-低のトーンが 3 回繰り返される)を返し、LED インジケータが赤色に点滅を開始します。



3 セットアップバーコードを読む...
例:

通常のセットアップバーコードを読み取っている場合、スキャナーは 2 回のビープ音(低-高トーン)を返します。

* Industrial を有効にする



100309

固定長を有効にする



100604

通常のセットアップバーコード

通常のセットアップバーコード



セットアップに入る

特殊なセットアップバーコード

最大長(*126)または固定長 1



10 進法バーコード



確認



4 設定モードを終了する...

更新



または

中止



5 スキャナーは自動的に再起動します...

スキャナーは「最大長」などの特殊なセットアップバーコードを読み取っている場合、1 回の短いビープ音を返し、セットアップがさらに多くのバーコードを読み取るように求めていることを示します。

「10 進値」バーコードを読み取ります。

▶ 付表4「10 進法」を参照してください

入力値が確認されると、スキャナーは 2 回のビープ音(低-高トーン)を返します。

「設定モードに入る」と同じです。

「スキャナーの電源を ON にする」と同じ

以下の例は、ストリングパラメータの設定方法を示しています。

ステップ	アクション	成功した場合のユーザーフィードバック
1	スキャナーの電源を ON にする...	スキャナーは 1 回の長いビープ音(高いトーン)を返し、その LED インジケータは赤色に点灯してすぐに消えます。
2	設定モードに入る... セットアップに入る	スキャナーは 6 回のビープ音(高-低のトーンが 3 回繰り返される)を返し、LED インジケータが赤色に点滅を開始します。
3	セットアップバーコードを読む... 例:	スキャナーは「プリフィックスコード」などの特殊なセットアップバーコードを読み取っている場合、1 回の短いビープ音を返し、セットアップがさらに多くのバーコードを読み取るように求めていることを示します。
	プリフィックスの設定	

特殊なセットアップバーコード



更新



左 Alt の追加



16 進バーコード



確認



4 設定モードを終了する...

更新



または

中止



5 スキャナーは自動的に再起動します…

「BT HID」、「USB HID」、「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、キータイプとキーステータスが適用されます。キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを変更するかどうかを決定します。

▶ 付表3を参照してください

目的の文字列については、「16 進値」バーコードを読み取ります。例えば、頭に「+」の文字を置くスキャナーの場合、「2」と「B」を読み取ります。

▶ 付表4「16 進法」を参照してください

入力値が確認されると、スキャナーは 2 回のビープ音(低-高トーン)を返します。

「設定モードに入る」と同じです。

「スキャナーの電源を ON にする」と同じ

現在の設定をリスト表示

スキャナーのすべてのパラメータの現在の設定は、ユーザー検査のためにホストコンピュータに送信できます。これらのリストには、以下に示すページが含まれます。スキャナーに「x ページをリスト表示」バーコードを読み取らせることで関心のあるページを選択できます。スキャナーは 2 回のビープ音(低-高トーン)を返し、選択したページを直ちにホストに送信します。

ファームウェアバージョン、シリアル番号、インターフェース、ブザー、その他のスキャナーパラメータに関するリスト設定

リストページ 1



プリフィックス、サフィックス、長さコード設定(1/2)に関するリスト設定

リストページ 2



セットアップに入る

プリフィックス、サフィックス、長さコード設定(2/2)に関するリスト設定

リストページ 3



Code ID に関するリスト設定

リストページ 4



関連するリスト設定読み取り可能なシンボル体系(1/2)

リストページ 5



関連するリスト設定読み取り可能なシンボル体系(2/2)

リストページ 6



シンボル体系に関するリスト設定(1/3)

リストページ 7



シンボル体系に関するリスト設定(2/3)

リストページ 8



シンボル体系に関するリスト設定(3/3)

リストページ 9



(予約済み)

リストページ 10



編集フォーマットに関するリスト設定 1
(1/2)

リストページ 11



編集フォーマットに関するリスト設定 1
(2/2)

リストページ 12



編集フォーマットに関するリスト設定 2
(1/2)

リストページ 13



編集フォーマットに関するリスト設定 2
(2/2)

リストページ 14



編集フォーマットに関するリスト設定 3
(1/2)

リストページ 15



編集フォーマットに関するリスト設定 3
(2/2)

リストページ 16



編集フォーマットに関するリスト設定 4
(1/2)

リストページ 17



編集フォーマットに関するリスト設定 4
(2/2)

リストページ 18



編集フォーマットに関するリスト設定 5
(1/2)

リストページ 19



編集フォーマットに関するリスト設定 5
(2/2)

リストページ 20



ワンスキャンセットアップバーコードの作成

スキャナーの設定を容易にするために、ワンスキャンセットアップバーコードを作成して使用することができます。

1D ワンスキャンバーコード

ワンスキャンセットアップバーコードの要件:

- ▶ 「#@」文字のプリフィックス
- ▶ 6 桁のコマンドパラメータ
- ▶ 「#」文字のプリフィックス

1) 例えば、コマンドパラメータ「109952」を有効にするには、セットアップバーコードを 3 回スキャナーに読み取らせる必要があります。

セットアップに入る



リストページ 3



109952

更新



109999

しかし、以下のように 1 回の読み取りだけで可能となります。

109952 のワンスキャンセットアップバーコード



#@109952#

注記: (1) インターフェースを変更するまたは、(2) メモリモードを有効または無効に設定する場合、ワンスキャンセットアップバーコードを読み取ると、スキャナーは自動的に再起動します。スキャナーで長いビープ音が鳴り、LED が短く ON-OFF を繰り返します。

2D ワンスキャンバーコード

ユーザーは一連のシリアルコマンドを連結して単一の 2D バーコードを作成し、それをスキャンすることで設定することが出来ます。例えば、サフィックス文字を「#」に変更したい場合、次のように順番にシリアルコマンドを入力します。#@CipherLab101231109902109903109994



更新

サフィックスを設定するための 2D ワンスキャンセットアップバーコード



コマンド	目的
#@CipherLab	セットアップに入る
101231	▶ サフィックスの設定
109902	0x23 の最初の 16 進数の 1 桁を与えます
109903	▶ サフィックスとして「#」を取ることで、0x23 の 2 番目の 16 進数の 1 桁を与えます
109994	設定を確認する



バーコードスキャナーを使う

本章では、バーコードスキャナーの機能と使用法を説明します。

本章の目次

1.1 電源 ON.....	18
1.2 送信パッファ	18
1.3 LED インジケータ.....	19
1.4 ビープ音	20
1.5 「NR」をホストに送信.....	22
1.6 スキャンモード.....	23
1.7 スキャンタイムアウト	27
1.8 再読み取り間の間隔.....	27
1.9 読み取り冗長性(1D).....	28
1.10 UPC/EAN バーコード用の Addon セキュリティ.....	29
1.11 オートセンスモード.....	30
1.12 反転バーコード	31
1.14 ピックリストモード	32
1.15 携帯電話/ディスプレイモード	33
1.16 照明輝度	33



1.1 電源 ON

インターフェースケーブルをコンピュータに接続します。

RS232 ケーブルをお使いの場合は、AC アダプターを電源に接続します。

スキャナーは長いビープ音(高音)を発し、LED インジケータが赤色で短く点灯します。

1.2 送信バッファ

スキャナーは読み取ったデータを一つずつ送信バッファ(SRAM)経由でホストコンピュータに送信します。

バーコードが正常に読み取られると、スキャナーは短いビープ音(高いトーン)を返し、その LED インジケータは緑色に点灯してすぐに消えます。

しかし、低速のボーレートを使っている場合や、ハンドシェイク信号を待っている場合などはホストコンピュータはすぐにデータを受け取ることができません。そのような場合、読み取られたデータは10KBの送信バッファに、保存されます。バッファがフルになった場合は、長い低音のビープ音と LED インジケータが赤色に短く点灯して警告を発します。

注記: 10 KB の送信バッファにより例えば EAN-13 バーコードの場合 640 ものスキャンデータを保持できません。スキャナーが OFF になったりバッテリー残量がなくなったりすると、データは消去されます!

*有効



101015

無効



101016



1.3 LED インジケータ

スキャナー上部の2色 LED は、ユーザーフィードバックを示します。例えば、電源が ON になったり送信バッファがフルになったりすると直ちに、LED は赤色に点灯して消えます。ビープ音の違いを見分けることができます。スキャナーの電源が ON になっているとき高いトーンの長いビープ音を返し、送信バッファがいっぱいになると低いトーンの長いビープ音を返します。

スキャナーLED		意味
赤 色 、 ON-OFF	---	<ul style="list-style-type: none">▶ 電源 ON、長いビープ音(高音、LED が 1 秒間点灯)▶ 送信バッファがフル、1 回の長いビープ音(低音)▶ RS232/USB Virtual Com 接続に失敗。2 回ビープ音(高-低音)
---	緑色 ON-OFF	グッドリード、1 回の短いビープ音(高音)、ビーパーピッチと持続時間がプログラム可能
赤色、 点滅	---	設定モード。(ON/OFF:0.5sec/0.5sec)

1.3.1 グッドリード LED



1.3.2 グッドリード LED 持続時間

デフォルトで、グッドリード LED は 40 ミリ秒間 ON になっています。10 ミリ秒の単位で、1～254 の値を指定します。

0.01～2.54 秒後グッドリード LED タイムアウト
(*40 ms)



- 1) 上のバーコードを読み取って、グッドリード LED が OFF になるまでの時間を指定します。
- 2) 「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、LED で「1」と「5」を読み取ると、150 ミリ秒後に OFF になります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



1.4 ビープ音

さまざまな操作条件下でユーザーにフィードバックを提供するために、スキャナーにはブザーが搭載されています。

ビープ作動	意味
1 回長いビープ音、高音	電源 ON、LED が赤く ON(1 秒間)、その後すぐに OFF
1 回短いビープ音、高音 ▶ プログラム可能、デフォルトは 4 KHz	グッドリード、LED が緑色に短く ON-OFF
6 回短いビープ音 ▶ 高-低音を 3 回繰り返す	▶ 設定モードに入ります、LED が赤色に点滅 ▶ 設定モードを終了します
2 回ビープ音、低-高音	セットアップバーコードが正常に読み取られました
2 回ビープ音、高-低音	RS232/USB Virtual 接続に失敗、データは送信バッファに保存されます。赤色 LED が短く ON/OFF。
1 回短いビープ音、高音	さらに設定バーコードの読み取りが必要です。
1 回短いビープ音、低音	マルチバーコードエディターモードで、出力シーケンスを完了するのにさらにバーコード読み取りが必要です。緑色 LED が短く ON-OFF
1 回長いビープ音、低音	送信バッファがフル 設定エラー
2 回長いビープ音、高-低トーン	マルチバーコードモード - バッファがフル

1.4.1 ビープ音量

消音



101009

最小音量



101010

中間音量



101011

*最大音量



101012



セットアップに入る

1.4.2 グッドリードビーブ音

周波数

8 kHz



101001

*4 kHz



101002

2 kHz



101003

1 kHz



101004

時間

*最短



101005

短い



101006

長い



101007

最長



101008



1.5 「NR」をホストに送信

出力インターフェースでキーボードウェッジまたは RS-232 が選択されているときのみ、この機能は有効です。スキャナーから「NR」文字列をホストに送信し、読み取りイベントなしを通知します。

有効



100267

*無効



100266



1.6 スキャンモード

さまざまなスキャンモードがサポートされています – 特定アプリケーションの要件にもっともよく合うスキャンモードを選択してください。以下の比較表を参照してください。

スキャンモード	スキャンの開始				スキャンの停止			
	常にデコードする	トリガーを1回押す	トリガーを保留する	トリガーを2回押す	トリガーを解除する	トリガーを1回押す	バーコードが読み込まれる	タイムアウト
テストモード	✓							
レーザーモード			✓		✓		✓	✓
自動 OFF モード		✓					✓	✓
自動電源 OFF モード:		✓						✓
エイミングモード				✓			✓	✓
マルチバーコードモード			✓		✓			
プレゼンテーションモード	✓							

注記: デフォルトで、スキャンモードはレーザーモードに設定されます。

1.6.1 テストモード

スキャナーは常にスキャンします。

- ▶ テスト目的で、同じバーコードを繰り返しデコードできます。

テストモード



100207



1.6.2 レーザーモード

トリガーを押し下げると、スキャナーはスキャンを開始します。

- ▶ スキャンが停止するのは(1) バーコードがデコードされる、(2) 前もって設定されたタイムアウト時間が経過した、または(3) トリガーを離すときです。

注記: 「スキャンタイムアウト」を参照してください。

*レーザーモード



1.6.3 自動 OFF モード

トリガーを押すと、スキャナーはスキャンを開始します。

- ▶ スキャンが停止するのは、(1) バーコードがデコードされる、および(2) 前もって設定されたタイムアウト時間が経過したときです。

注記: 「スキャンタイムアウト」を参照してください。

自動 OFF モード



1.6.4 自動電源 OFF モード

トリガーを押すと、スキャナーはスキャンを開始します。

- ▶ スキャンが停止するのは、前もって設定されたタイムアウト時間が経過した、またデコードが成功するたびに前もって設定されたタイムアウト時間が再カウントされるときです。

注記: 「再読み取り間の間隔」および「スキャンタイムアウト」を参照してください。

自動電源 OFF モード



1.6.5 エイミングモード

トリガーが押されるとスキャナーはバーコードに照準を合わせ、それから 1 秒以内にトリガーが押されるとスキャンを開始します。

- ▶ スキャンが停止するのは、(1) バーコードがデコードされる、および(2) 前もって設定されたタイムアウト時間が経過したときです。

エイミングモード



エイミングタイムアウト

エイミング時間を 1～15 秒に設定できます。デフォルトで、スキャナーのタイムアウトは 1 秒に設定されています。

1～15 秒後エイミングタイムアウト (*1)



1. 上のバーコードを読み取って、エイミングが終わるまでの時間を指定します。(デフォルトでは、1 に設定されています。)
2. 「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります 193。例えば、「1」と「0」を読み取ると、スキャナーは 10 秒間のアイドルの後に自動的にシャットダウンします。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

1.6.6 マルチバーコードモード

トリガーを押し下げている間スキャナーはスキャンし続け、一度に 1 つのユニークなバーコードだけでなく、複数のユニークバーコードもデコード可能です。一連のユニークなバーコードをデコードしている間、同一のバーコードが 2 回デコードされると、2 回目のデコードは無視されます。

- ▶ トリガーを離すまで、スキャンは停止しません。

マルチバーコードモード



注記: (1) そのコードタイプまたはデータが他のものと異なっている場合、バーコードはユニークであると見なされます。 (2)

マルチバーコードモードは [Multi-Barcode Editor](#) と関係がありません。



1.6.7 プレゼンテーションモード

バーコードがスキャン領域内に入ると、スキャナーはバーコードをデコードします。ハンズフリー操作の場合、バーコードをオートセンススタンドに置くことをお勧めします。

プレゼンテーションモード



低照明下での読取り向上

これを有効にすると低照明下での読み取りを向上することができます

有効



*無効



1.7 スキャンタイムアウト

スキャンモードが次のいずれかのモードに設定されているとき、スキャン時間(1～254 秒、0= 無効)を指定します –

- ▶ レーザーモード
- ▶ 自動 OFF モード
- ▶ 自動電源 OFF モード
- ▶ エイミングモード

0～254 秒後スキャナ
タイムアウト (*10)



- 1) 上のバーコードを読み取って、スキャンエンジンがタイムアウトになるまでの時間を指定します。
- 2) 「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、「1」と「5」を読み取ると、スキャナーは 15 秒間のアイドルの後に自動的にシャットダウンします。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

1.8 再読み取り間の間隔

これは「ブロッキングタイム」とも呼ばれ、スキャンモードが次のいずれかに設定されているとき、スキャナーが同じバーコードを間違って 2 回読み取るのを防ぐために使用されます。

- ▶ 自動電源 OFF モード:
- ▶ プレゼンテーションモード

100 ms



200 ms



*400 ms



800 ms





1.9 読み取り冗長性(1D)

- ▶ 「冗長性なし」が選択されている場合、デコードが 1 回成功すると読み取りが有効になります。
- ▶ 「2 回」を選択すると、同一のバーコードを 3 回読み取り成功する必要があります。読み取りセキュリティが高いほど(つまり、ユーザーが選択する冗長性が高いほど)、読み取り速度は遅くなります。

選択する冗長性が高いほど、読み取りセキュリティは高くなり、それ故、読み取り速度が遅くなるというのは明らかです。読み取りセキュリティとデコード速度の妥協点を見つける必要があります。



1.10 UPC/EAN バーコード用の ADDON セキュリティ

Addon の有無を問わず、UPC/EAN バーコードをデコードできます。読み取り冗長性(2～16 回、デフォルトは 10 に設定)により、送信前に UPC/EAN バーコードをデコードする回数を変更できます。選択する冗長性が高いほど、読み取りセキュリティは高くなり、それ故、読み取り速度が遅くなります。読み取りセキュリティとデコード速度の妥協点を見つける必要があります。

注記: この設定を有効にするには、UPC/EAN Addon2 と Addon5 を個別に有効にする必要があります。

Addon セキュリティレベル(2～16)、デフォルト:10)



- 1) 上のバーコードを読み取って UPC/EAN バーコードの読み取り冗長性を指定してください。
- 2) 「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、「1」と「2」を読み取ると、スキャナーは 12 回バーコードを再び読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



1.11 オートセンスモード

1.11.1 1504 の場合

スキャナーがオートセンススタンドにセットされている時のみ有効です。スキャンモードは自動的にレーザーモードにセットされます。



注記: このモードを有効にするとスキャンモードはレーザーモードに自動的にセットされます。このモードを終了するには、スキャナーをスタンドから取り外すか、上記の「無効」バーコードを読み込ませます。

1.11.2 1504A の場合

このモードはスキャナーがレーザーモードに設定されている時のみ有効です。オートセンススタンドに固定されている限り、スキャナーはバーコード読み取り待機状態です。バーコードがスキャン領域内に入ると、スキャナーはバーコードをデコードします。

このモードを中止する場合はスキャナーをスタンドから取り外します。



1.12 反転バーコード

- ▶ 以下のバーコードに対し有効です。
- ▶ すべての 1D シンボル体系
- ▶ Data Matrix
- ▶ QR Code
- ▶ Aztec

有効



*無効



1.13 ケーブル自動判別

同梱のケーブルをスキャナーに接続すると、スキャナーはインターフェースを自動で判別します。

ケーブル自動判別	デフォルト
キーボードウエッジ	キーボードタイプ PCAT (US)
RS-232	115200 bps, 8 bits, No parity, 1 stop bit
USB	キーボードタイプ USB HID および PCAT (US)

注記: “USB Virtual COM”が必要な場合は以下のバーコードを読み取って設定します。

*有効



100017

無効



100016

1.14 ピックリストモード

ピックリストモードは、レーザー照準パターンの中の中心のバーコードを読み取るモードです

有効



102201

*無効



102200



1.15 携帯電話/ディスプレイモード

デフォルトで、このモードは無効になっています。携帯電話や電子ディスプレイに表示されたバーコードの読み取りが大幅に改善されています。



1.16 照明輝度

LED 光源の照明輝度を調整できます。1～10 の範囲で値を指定し、輝度レベルを設定します。デフォルトでは 10 に指定されていますが、これは 100%照明されていることを意味します。



- 1) 調整を開始するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の照明輝度レベルについては、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



出力インターフェースを選択する

- 1) スキャナーと PC を付属のインターフェースケーブルで接続すると、スキャナーはインターフェースの種類を自動判別します。
- ▶ RS-232 ケーブルの場合は電源に接続して下さい。
 - ▶ USB cable の場合、デフォルトでは USB HID に設定されています。
- “USB Virtual COM”を望まれる場合はセットアップバーコードを読み取って下さい。

ケーブル自動判別	デフォルト
キーボードウエッジ	キーボードタイプ PCAT (US)
RS-232	115200 bps, 8 bits, No parity, 1 stop bit
USB	キーボードタイプ USB HID および PCAT (US)

注記: ケーブルに “Cable Detection Supported” というラベルが貼られていることを確認下さい。

- 2) まず “Enter Setup セットアップに入る” バーコードを読み込みます。
- 3) 該当するインターフェースの設定バーコードを読み込みます。
- 4) 引き続き関連する設定バーコードを読み込みます。
- 5) 最後に “Update 更新” バーコードを読み込んで設定を終了します。



2.1 キーボードウェッジ

Y ケーブルスキャナーを PC のキーボード入力端子に接続。スキャンされたデータはキーボードから入力されたデータと同様にホストに転送されます。

キーボードウェッジの設定	デフォルト
キーボードタイプ	PCAT (US)
アルファベットレイアウト	通常
数字レイアウト	通常
キャップスロックタイプ	通常
キャップスロック状態	OFF
アルファベット送信	大文字と小文字を区別する
数字送信	英数字キーパッド
漢字送信	無効
キャラクター間転送間隔	0 (ms)
ファンクションコード間転送間隔	0 (ms)

2.1.1 キーボードウェッジをアクティブにし、キーボードタイプを選択する

キーボードウェッジインターフェースがアクティブになっている場合、キーボードタイプを選択してこの設定を終了する必要があります

キーボードウェッジをア
クティブにし、キーボー
ドタイプを選択する



- 1) 上のバーコードを読み取って、キーボードウェッジをアクティブにし、キーボードタイプを選択します。
- 2) 「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。目的のキーボードタイプの番号については、以下の表を参照してください。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



キーボードタイプ

デフォルトで、キーボードタイプは PCAT (US)に設定されています。次のキーボードタイプがサポートされています。

By default, the keyboard type is set to PCAT (US). The following keyboard types are supported –

No.	Keyboard Type	No.	Keyboard Type
1	PCAT (US)	18	PS55 001-3
2	PCAT (French)	19	PS55 001-8A
3	PCAT (German)	20	PS55 002-1, 003-1
4	PCAT (Italian)	21	PS55 002-81, 003-81
5	PCAT (Swedish)	22	PS55 002-2, 003-2
6	PCAT (Norwegian)	23	PS55 002-82, 003-82
7	PCAT (UK)	24	PS55 002-3, 003-3
8	PCAT (Belgium)	25	PS55 002-8A, 003-8A
9	PCAT (Spanish)	26	IBM 3477 Type 4 (Japanese)
10	PCAT (Portuguese)	27	PS2-30
11	PS55 A01-1	28	IBM 34XX/319X, Memorex Telex 122 Keys
12	PS55 A01-2 (Japanese)	29	User-defined table
13	PS55 A01-3	30	PCAT (Turkish)
14	PS55 001-1	31	PCAT (Hungarian)
15	PS55 001-81	32	PCAT (Swiss German)
16	PS55 001-2	33	PCAT (Danish)
17	PS55 001-82		



2.1.2 キーボード設定

- ▶ アルファベットレイアウト
- ▶ 数字レイアウト
- ▶ キャップスロックタイプ
- ▶ キャップスロック設定
- ▶ アルファベット転送
- ▶ 数字転送
- ▶ 漢字転送
- ▶ ALT キー
- ▶ ノート PC のサポート

アルファベットレイアウト

デフォルトで、アルファベットレイアウトは通常モードに設定されており、標準の英語レイアウトとしても知られています。必要に応じて、フランス語またはドイツ語キーボードを選択してください。A、Q、W、Z、Y、M の文字を送信しているとき、スキャナーはこの設定に従って調整を行います。

*通常



100060

AZERTY



100061

QWERTZ



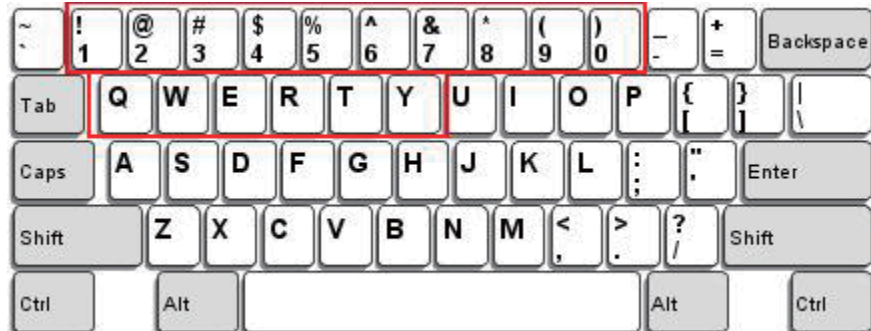
100062

注記: 選択したキーボードタイプが PCAT (US)などの US キーボードのときのみ、この設定は機能します。アルファベットレイアウトと数字レイアウト設定は、キーボードと適合する必要があります。



US キーボードスタイル – 通常

QWERTY レイアウト。通常、西洋諸国で使用されています。



- ▶ 上方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「下方の段」を選択します。

フランス語キーボードのスタイル – AZERTY

フランス語レイアウト。フランス語キーボードのスタイルについては以下を参照してください。



- ▶ 下方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「上方の段」を選択します。

ドイツ語キーボードのレイアウト – QWERTZ

ドイツ語レイアウト。ドイツ語キーボードのスタイルについては以下を参照してください。



- ▶ 上方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「下方の段」を選択します。



数字レイアウト

アルファベットレイアウトに適合する適切なレイアウトを選択してください。

オプション	説明
通常	[シフト]キーまたは[シフトロック]設定次第
下方の段	QWERTY または QWERTZ キーボードの場合
上方の段	AZERTY キーボードの場合

*通常



100046

上方の段



100049

下方の段



100048

キャップスロックタイプと設定

正しい大文字・小文字でアルファベットを送信するには、スキャナーがキーボードのキャップスロックのステータスを知る必要があります。設定を間違えると、送信されるアルファベットの大文字・小文字が反対になります。

キャップロックタイプ	説明
通常	通常タイプ
キャップスロック	有効になっているとき、アルファベット文字のキーは大文字と見なされます。しかし、これは句読点キーの数字に影響を与えません。
シフトロック	有効になっているとき、アルファベット文字のキーは大文字と見なされます。さらに、これは数字または句読点キーに影響を与えます。

*通常



100042

シフトロック



100045

キャップスロック



100044



キャプスロック状態	説明
キャプスロック OFF	(アルファベット送信で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)キーボードのキャプスロックのステータスが OFF であるとする、送信された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。
キャプスロック ON	(アルファベット送信で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)キーボードのキャプスロックのステータスが ON であるとする、送信された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。 ▶ 上のキャプスロックタイプを参照してください。
自動検出	(アルファベット送信で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)スキャナーはデータが送信される前のキーボードのキャプスロックのステータスを自動的に検出し、送信された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。 ▶ この設定は PDA ではサポートされません。

自動検出



100054

キャプスロック ON



100053

*キャプスロック OFF



100052

アルファベット送信

デフォルトで、アルファベット送信は大文字と小文字を区別します。つまり、アルファベットは元の大文字・小文字、キーボードのキャプスロックのステータス、およびキャプスロック設定に従って送信されます。キーボードのキャプチャ 1 ロックのステータスのみに従ってアルファベットを送信するには、[大文字小文字を区別しない]を選択します。

大文字小文字を無視

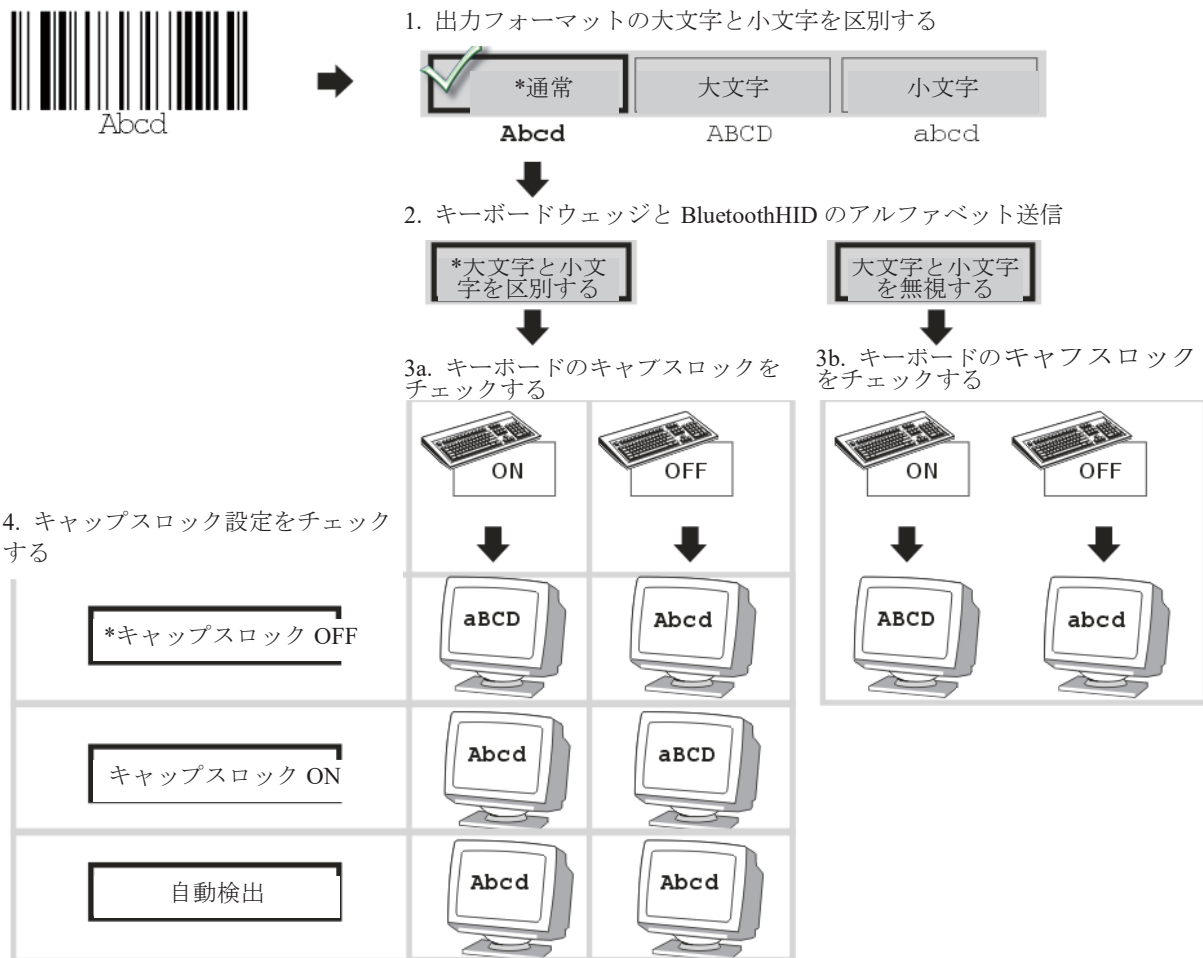


100051

*大文字と小文字を区別
する

100050





数字送信

デフォルトで、英数字キーパッドは数字の送信に使用されます。テンキーを使用したい場合、「テンキー」を選択します。





注記: 「テンキー」を選択すると、物理的キーボードの数値ロックステータスは「ON」になっている必要があります。この設定は PDA ではサポートされません。

漢字送信

漢字送信は Bluetooth HID、クレードルを介したキーボードウェッジまたはクレードルを介した USB HID のいずれかが出力インターフェースに対して選択されているとき、スキャナーによりサポートされます。漢字送信により、ホストコンピュータが日本語の Windows O.S.を実行しているとき、スキャナーは現在の日本語の表記法で使用する中国文字を含め、日本語の文字を送信することができます。

デフォルトで、漢字送信は無効になっています。次のバーコードを読み取ることで、スキャナーの漢字送信を有効/無効にする:

有効



*無効



ALT キー

デフォルトで、ALT キーは無効になっています。特定のキーボード文字の代替キーコードをエミュレートするのを許可するには、[はい]を選択します。例えば、[Alt] + [065]は使用しているキーボードタイプにかかわらず、Aの文字をホストに転送します。

はい



100057

*いいえ



100056

ノート PC のサポート

デフォルトで、ノート PC のサポートは無効になっています。相互連結される外部キーボードのないノート PC にウェッジケーブルを接続する場合、この機能を有効にすることを推奨します。

有効



100059

*無効



100058



2.1.3 キャラクター間転送間隔

デフォルトで、キャラクター間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0～254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が、送信されるすべての文字間に挿入されます。間隔が長いほど、送信速度は遅くなります。

キャラクター間転送間隔
… (*0～254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、キャラクター間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のキャラクター間転送間隔(ミリ秒)については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

2.1.4 ファンクションコード間転送間隔

デフォルトで、ファンクションコード間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0～254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が送信されるすべてのファンクションコード(0x01 ～ 0x1F)間に挿入されます。間隔が長いほど、送信速度は遅くなります。

ファンクションコード間転送間隔… (*0～254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、ファンクションコード間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のファンクションコード間転送間隔(ミリ秒)については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

2.1.5 特殊キーボード

特殊キーボードを適用するか、バイパスするか設定して下さい。、[キーボードウェッジ表](#)を参照してください。

*適用



バイパス



2.2 RS-232

RS-232 ケーブルを使用して PC のシリアルポートに接続し、電源供給コードを差し込みます。関連する RS-232 パラメータは、コンピュータで設定されたパラメータに適合する必要があります。コンピュータで HyperTerminal.exe を実行すると、スキャンされたデータはコンピュータのシリアルポートに転送されます。

RS-232 設定	デフォルト
ボーレート、データビット、パリティ、ストップビット	115200 bps、8 ビット、パリティなし、1 ストップビット
フロー制御	なし
キャラクター間転送間隔	0 (ms)
ファンクションコード間転送間隔	0 (ms)
ACK/NAK タイムアウト	0
ACK/NAK ビープ音	無効

2.2.1 RS-232 インターフェースをアクティブにする

RS-232 インターフェースをアクティブにする



2.2.2 ボーレート

*115200 bps



57600 bps



38400 bps

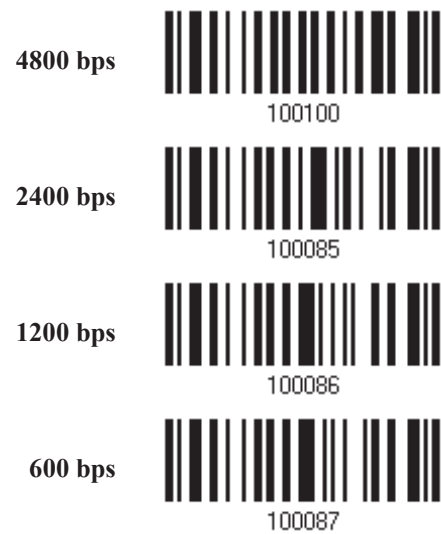


19200 bps



9600 bps





2.2.3 データビット



2.2.4 パリティ



2.2.5 ストップビット

2 stop bits



100099

*1 stop bit



100098

2.2.6 フロー制御

デフォルトではフロー制御無しです。

オプション	説明
なし	フロー制御なし
スキャナーレディ	電源が ON になると、スキャナーは RTS 信号をアクティブにします。それぞれの Good Read (グッドリード) の後、スキャナーは CTS 信号がアクティブになるのを待ちます。CTS 信号がアクティブになるまで、データは転送されません。
データレディ	それぞれの Good Read の後、RTS 信号がアクティブにされます。スキャナーは CTS 信号がアクティブになるのを待ちます。CTS 信号がアクティブになるまで、データは転送されません。
反転したデータレディ	RTS 信号レベルが反転していることを除き、データレディフロー制御と同じように機能します。

*なし



100094

スキャナーレディ



100095

データレディ



100096

データレディの反転



100097



2.2.7 キャラクター間転送間隔

デフォルトで、キャラクター間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0～254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が転送されるすべての文字間に挿入されます。間隔が長いほど、転送速度は遅くなります。

キャラクター間転送間
隔... (*0～254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、キャラクター間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のキャラクター間転送間隔(ミリ秒)については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

2.2.8 ファンクションコード間転送間隔

デフォルトで、ファンクションコード間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0～254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が転送されるすべてのファンクションコード(0x01 ～ 0x1F)間に挿入されます。間隔が長いほど、転送速度は遅くなります。

ファンクションコード
間転送間隔(*0～254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、ファンクションコード間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のファンクションコード間転送間隔(ミリ秒)については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

2.2.9 ACK/NAK タイムアウト

デフォルトで、スキャナーは ACK/NAK 応答を待たずにデータをホストに転送した後さらに多くのデータを転送します。0.1 秒の単位で、1～99 の値を指定します。一定時間内に応答がない場合、スキャナーは同じデータの転送をさらに 2 回試みます。何の通知もなしにすべての試みが 3 回失敗すると、データ損失が発生します。

(*0～99)後の
ACK/NAK タイムアウ
ト



- 1) 上のバーコードを読み、スキャナーがデータを転送しホストからの応答を待つ時間を指定します。
- 2) 「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、「1」と「0」を読み取ると、スキャナーは 1 秒間のアイドルの後に自動的にシャットダウンします。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



ACK/NAK エラービープ音

有効



*無効



2.3 ダイレクト USB HID

USB HID の場合、スキャナーを PC の USB ポートに接続します。コンピュータでテキストエディタを実行すると、スキャンされたデータはコンピュータに送信されます。

HID 設定	デフォルト
キーボードタイプ	PCAT (US)
数字レイアウト	通常
キャップスロックタイプ	通常
キャップスロック状態	OFF
アルファベット送信	大文字と小文字を区別する
数字送信	英数字キーパッド
漢字送信	無効
キャラクター間転送間隔	0 (ms)
ファンクションコード間転送間隔	0 (ms)

2.3.1 USB HID をアクティブにし、キーボードタイプを選択する

USB HID インターフェースがアクティブになっている場合、キーボードタイプを選択してこの設定を終了する必要があります。

USB HID をアクティブに
し、キーボードタイプを
選択する…



- 1) 上のバーコードを読み取って、USB HID をアクティブにし、キーボードタイプを選択します。
- 2) 「10 進値」バーコードを読み取ります。目的のキーボードタイプの番号については、以下の表を参照してください。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



USB HID

By default, the keyboard type is set to PCAT (US). The following keyboard types are supported —

No.	Keyboard Type	No.	Keyboard Type
64	PCAT (US)	74	PS55 A01-2 (Japanese)
65	PCAT (French)	75	User-defined table
66	PCAT (German)	76	PCAT (Turkish)
67	PCAT (Italy)	77	PCAT (Hungarian)
68	PCAT (Swedish)	78	PCAT (Swiss German)
69	PCAT (Norwegian)	79	PCAT (Danish)
70	PCAT (UK)	83	PCAT (Russian)
71	PCAT (Belgium)	88	PCAT (Cyrillic)
72	PCAT (Spanish)	89	PCAT (Armenian)
73	PCAT (Portuguese)		



2.3.2 キーボード設定

- ▶ アルファベットレイアウト
- ▶ 数字レイアウト
- ▶ キャップスロックタイプ
- ▶ キャップスロック設定
- ▶ アルファベット送信
- ▶ 数字送信
- ▶ 漢字送信

アルファベットレイアウト

デフォルトで、アルファベットレイアウトは通常モードに設定されており、標準の英語レイアウトとしても知られています。必要に応じて、フランス語またはドイツ語キーボードを選択してください。A、Q、W、Z、Y、M の文字を送信しているとき、スキャナーはこの設定に従って調整を行います。

*通常



AZERTY



QWERTZ

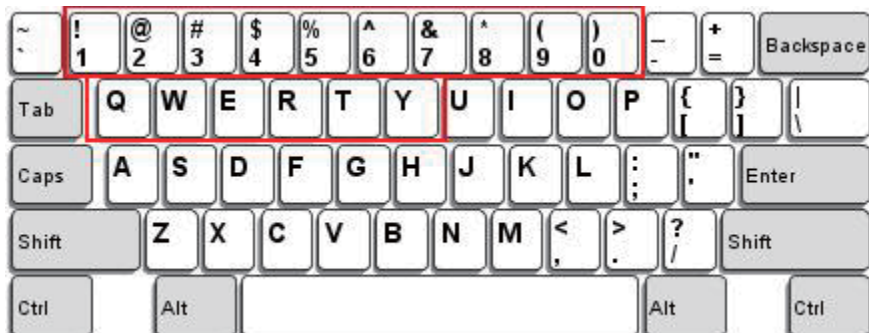


注記: 選択したキーボードタイプが PCAT (US)などの US キーボードのときのみ、この設定は機能します。アルファベットレイアウトと数字レイアウト設定は、キーボードと適合する必要があります。



US キーボードスタイル – 通常

QWERTY レイアウト。通常、西洋諸国で使用されています。



- ▶ 上方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「下方の段」を選択します。

フランス語キーボードのスタイル – AZERTY

フランス語レイアウト。フランス語キーボードのスタイルについては以下を参照してください。



- ▶ 下方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「上方の段」を選択します。

ドイツ語キーボードのレイアウト – QWERTZ

ドイツ語レイアウト。ドイツ語キーボードのスタイルについては以下を参照してください。



- ▶ 上方の段は特殊文字に当てられているため、「数字レイアウト」設定には「下方の段」を選択します。



数字レイアウト

アルファベットレイアウトに適合する適切なレイアウトを選択してください。スキャナーは、この設定に従って調整を行います。

オプション	説明
通常	[シフト]キーまたは[シフトロック]設定次第
下方の段	QWERTY または QWERTZ キーボードの場合
上方の段	AZERTY キーボードの場合

*通常



100046

上方の段



100049

下方の段



100048

キャップスロックタイプと設定

。設定を間違えると、送信されるアルファベットの大文字・小文字が反対になります。

キャップロックタイプ	説明
通常	通常タイプ
キャップスロック	有効になっているとき、アルファベット文字のキーは大文字と見なされます。しかし、これは句読点キーの数字に影響を与えません。
シフトロック	有効になっているとき、アルファベット文字のキーは大文字と見なされます。さらに、これは数字または句読点キーに影響を与えます。

*通常



100042

シフトロック



100045

キャップスロック



100044



キャプスロック状態	説明
キャプスロック OFF	(アルファベット送信で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)キーボードのキャプスロックのステータスが OFF であるとする、送信された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。
キャプスロック ON	(アルファベット送信で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)キーボードのキャプスロックのステータスが ON であるとする、送信された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。 ▶ 上のキャプスロックタイプを参照してください。
自動検出	(アルファベット送信で「大文字と小文字を区別する」が選択されているとき)スキャナーはデータが送信される前のキーボードのキャプスロックのステータスを自動的に検出し、送信された文字はバーコードの文字とまったく同じになります。

自動検出



100054

キャプスロック ON



100053

*キャプスロック OFF



100052

アルファベット送信

デフォルトで、アルファベット送信は大文字と小文字を区別します。つまり、アルファベットは元の大文字・小文字、キーボードのキャプスロックのステータス、およびキャプスロック設定に従って送信されます。キーボードのキャプチャ 1 ロックのステータスのみに従ってアルファベットを送信するには、[大文字小文字を区別しない]を選択します。

大文字小文字を無視



100051

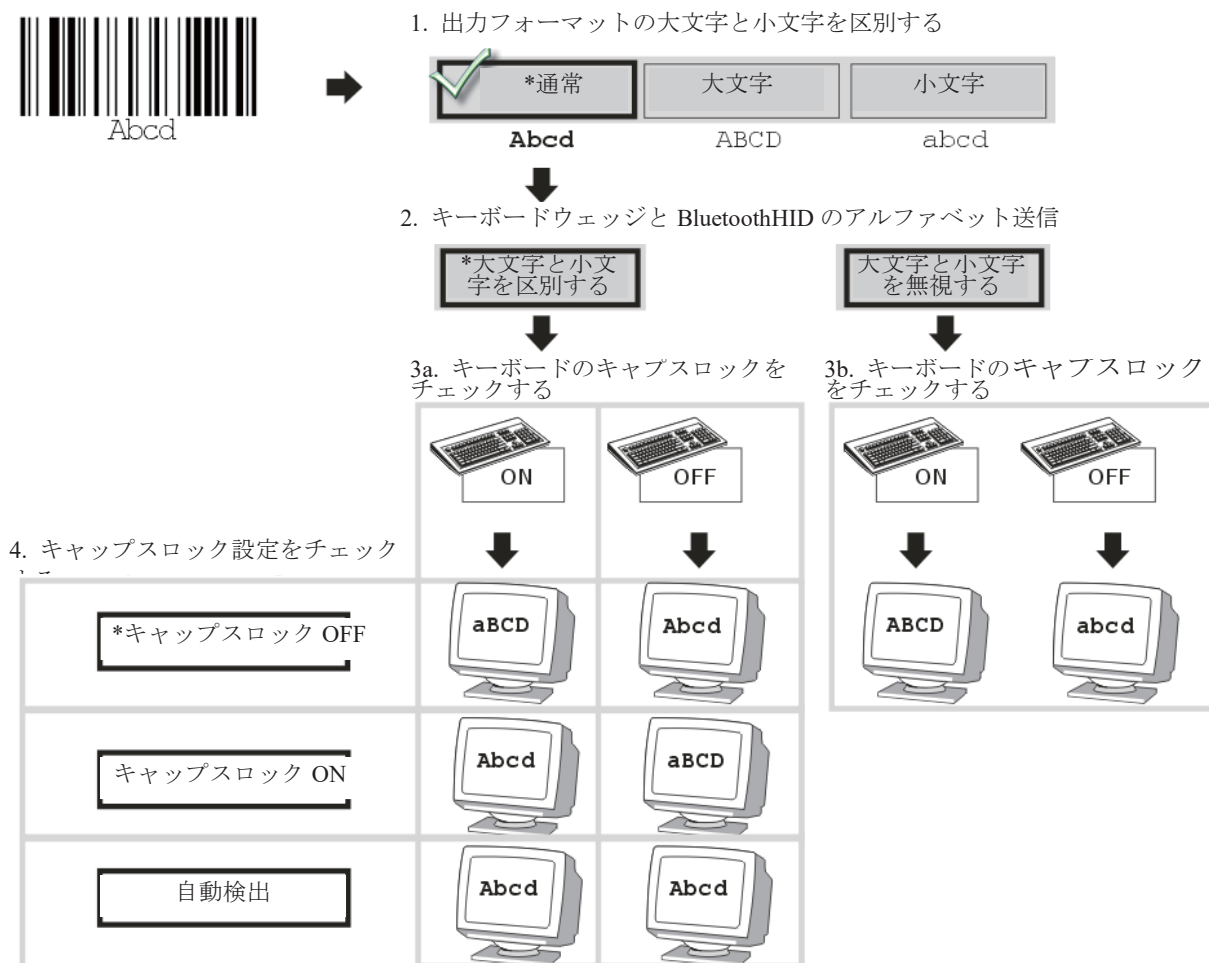
*大文字と小文字を区別する



100050



セッティングに入る



数字送信

デフォルトで、英数字キーパッドは数字の送信に使用されます。テンキーを使用したい場合、「テンキー」を選択します。





注記: 「テンキー」を選択すると、物理的キーボードの数値ロックステータスは「ON」になっている必要があります。

漢字送信

漢字送信はキーボードウェッジまたはダイレクト USB HID のいずれかが出力インターフェースに対して選択されているとき、スキャナーによりサポートされます。漢字送信により、ホストコンピュータが日本語の Windows O.S.を実行しているとき、スキャナーは現在の日本語の表記法で使用する中国文字を含め、日本語の文字を送信することができます。

デフォルトで、漢字送信は無効になっています。次のバーコードを読み取ることで、スキャナーの漢字送信を有効/無効にする:

有効



100067

*無効



100066



2.3.3 キャラクター間転送間隔

デフォルトで、キャラクター間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0～254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が送信されるすべての文字間に挿入され、間隔が長いほど、送信速度は遅くなります。

キャラクター間転送間隔
… (*0～254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、キャラクター間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のキャラクター間転送間隔(ミリ秒)については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

2.3.4 ファンクションコード間転送間隔

デフォルトで、ファンクションコード間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0～254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が送信されるすべてのファンクションコード(0x01～ 0x1F)間に挿入されます。間隔が長いほど、送信速度は遅くなります。

ファンクションコード間転送間隔… (*0～254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、ファンクションコード間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のファンクションコード間転送間隔(ミリ秒)については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

2.3.5 HID 文字送信モード

デフォルトで、HID インターフェースはホストヘデータをバッチ単位で送信します。スキャナーに「文字単位で」バーコードを読み取らせ、一度に 1 文字ずつデータを処理することができます。

*バッチ処理



文字単位で



2.3.6 特殊キー

デフォルトで、このインターフェースはキーボードウェッジ表で定義されたファンクションコード(0x01～0x1F)を採用しています。しかし、データエラーを避けるためにバーコード内部でこれらのファンクションコードを取り除く必要があるかもしれません。特殊キーを適用するかどうかを決定できます。詳細については、[キーボードウェッジ表](#)を参照してください。

*適用



100018

バイパス



100019

2.3.7 UTF8 変換 (1504A のみ)

この機能はデフォルトでは「無効」です。これは Russian, Cyrillic, and Armenian キーボード用です。

有効



100023

*無効



100022



2.4 ダイレクト USB VIRTUAL COM

スキャナーを PC の USB ポートに接続します。コンピュータで HyperTerminal.exe を実行すると、スキャンされたデータはコンピュータに送信されます。

注記: 初めて USB Virtual COM を使用する場合、前もってそのドライバをインストールする必要があります。バージョン 5.4 以降のドライバが必要です。古いバージョンを削除してください!

2.4.1 USB VIRTUAL COM をアクティブにする

ダイレクト USB Virtual
COM をアクティブにする



2.4.2 ファンクションコード間転送間隔

デフォルトで、ファンクションコード間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0～254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が送信されるすべてのファンクションコード(0x01 ～ 0x1F)間に挿入されます。間隔が長いほど、送信速度は遅くなります。

ファンクションコード間転
送間隔… (*0～254)



- 1) 上のバーコードを読み取り、ファンクションコード間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のファンクションコード間転送間隔(ミリ秒)については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

2.4.3 ACK/NAK タイムアウト

デフォルトで、スキャナーは ACK/NAK 応答を待たずにデータをホストに送信した後にさらに多くのデータを送信します。0.1 秒の単位で、1～99 の値を指定します。一定時間内に応答がない場合、スキャナーは同じデータの送信をさらに 2 回試みます。何の通知もなしにすべての試みが 3 回失敗すると、データ損失が発生します。

… (*0～99)後の
ACK/NAK タイムアウト



- 1) 上のバーコードを読み、スキャナーがデータを送信しホストからの応答を待つ時間を指定します。
- 2) 「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、「1」と「0」を読み取ると、スキャナーは 1 秒間のアイドルの後に自動的にシャットダウンします。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



ACK/NAK エラービープ音

エラービープを有効にする



100015

*エラービープを無効にする



100014

注記: ユーザーにこのようなデータ損失の通知が届きスキャナーにデータの読み取りを再び行わせることができるように、エラービープ音を有効にするようにお勧めします。

2.5 ダイレクト USB VCOM_CDC

スキャナーを PC の USB ポートに接続し、HyperTerminal.exe を実行すると読み取られたデータが PC に送信されます。

注記: 初めて USB Virtual COM を使う場合は VCOM_CDC ドライバーを前もってインストールしておく必要があります。

2.5.1 USB VCOM_CDC をアクティブにする

Activate
Direct USB VCOM_CDC

100010

2.5.2 ファンクションコード間転送間隔

デフォルトで、ファンクションコード間転送間隔はゼロに設定されています。キーボードインターフェースのコンピュータ応答時間に適合する 0~254 の値を、ミリ秒の単位で指定します。この間隔が送信されるすべてのファンクションコード(0x01 ~ 0x1F)間に挿入されます。間隔が長いほど、送信速度は遅くなります。

ファンクションコード間転
送間隔… (*0~254)

100012

- 1) 上のバーコードを読み取り、ファンクションコード間転送間隔を指定してください。
- 2) 目的のファンクションコード間転送間隔(ミリ秒)については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



2.4.3 ACK/NAK タイムアウト

デフォルトで、スキャナーは ACK/NAK 応答を待たずにデータをホストに送信した後にさらに多くのデータを送信します。0.1 秒の単位で、1～99 の値を指定します。一定時間内に応答がない場合、スキャナーは同じデータの送信をさらに 2 回試みます。何の通知もなしにすべての試みが 3 回失敗すると、データ損失が発生します。

… (*0～99)後の
ACK/NAK タイムアウト



- 1) 上のバーコードを読み、スキャナーがデータを送信しホストからの応答を待つ時間を指定します。
- 2) 「10 進値」バーコードを読み取ります。例えば、「1」と「0」を読み取ると、スキャナーは 1 秒間のアイドルの後に自動的にシャットダウンします。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

ACK/NAK エラービープ音

エラービープを有効にする



*エラービープを無効にする



注記: ユーザーにこのようなデータ損失の通知が届きスキャナーにデータの読み取りを再び行わせることができるように、エラービープ音を有効にするようにお勧めします。



シンボル体系の設定を変更する

本章では、参照のためにシンボル体系の設定を簡単に説明します。

本章の目次

3.1	Codabar	66
3.2	Code 25 – Industrial 25.....	68
3.3	Code 25 – Interleaved 25	69
3.4	コード 25 – Matrix 25.....	71
3.5	コード 25 – Chinese 25.....	73
3.6	Italian Pharmacode (Code 32)	73
3.7	Code 39.....	74
3.8	Trioptic Code 39.....	76
3.9	Code 93.....	77
3.10	Code 128.....	77
3.11	GS1-128 (EAN-128)	77
3.12	ISBT 128	80
3.13	GS1 DataBar (RSS ファミリー).....	82
3.14	MSI.....	88
3.15	EAN-8.....	90
3.16	EAN-13	91
3.17	UCC Coupon 拡張型コード.....	93
3.18	UPC-A.....	93
3.19	UPC-E.....	95
3.20	Code 11	96
3.21	Composite Code(コンポジットコード)	99
3.22	US Postal コード.....	102
3.23	UK Postal コード.....	103
3.24	その他の郵便番号	104
3.25	2D シンボル体系.....	105
3.26	Macro PDF	111



3.1 CODABAR

*有効



100313

無効



100312

3.1.1 スタート/ストップ文字の送信

送信されるデータにスタート/ストップ文字を含めるかどうか決定します。

スタート/ストップ文字を
送信する



100441

*送信しない



100440

3.1.2 CLSI 変換

有効になっているとき、CLSI 編集はスタート/ストップ文字を取り去り、14 文字コードバーの最初、5 番目、10 番目の文字の後にスペースを挿入します。

CLSI 編集を適用



100443

*適用しない



100442

注記: 14 文字のバーコード長に、スタート/ストップ文字は含まれません。



3.1.3 コード長必要条件

「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。

- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の間に位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大2つの固定長を指定できます。

注記: 指定の長さには、バーコードが含むチェックデジットを含む必要があります。

- 1) バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします。

*最大/最小長(1~55)を
有効にする…



固定長を有効にする…



- 2) 最大長または固定長1のバーコードを読み取り、手順3~4に従います。
最小長または固定長2に対して手順2~4を繰り返します。

最大長(*55)または固定
長1



最小長(*4)または固定
長2



- 3) 目的の長さについては、「[10進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 4) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



3.2 CODE 25 — INDUSTRIAL 25

*有効



100307

無効



100306

3.2.1 コード長必要条件

「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。

- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の間に位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大 2 つの固定長を指定できます。

注記: 指定の長さには、バーコードが含むチェックデジットを含む必要があります。

- 1) バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします。

*最大/最小長(1~55)を
有効にする…



100601

固定長を有効にする…



100600

- 2) 最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。
最小長または固定長 2 に対して手順 2~4 を繰り返します。

最大長(*55)または固定
長 1



100602

最小長(*4)または固定
長 2



100603

- 3) 目的の長さについては、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 4) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



3.3 CODE 25 — INTERLEAVED 25

*有効



100309

無効



100308

3.3.1 チェックデジットを確認する

チェックデジットを確認するかどうかを決定します。、USS または OPCC アルゴリズムのいずれかを選択します。間違っている場合、バーコードは受け入れられません。

*確認しない



102122

USS チェックデジット



102123

OPCC チェックデジット



102124

3.3.2 チェックデジットを送信する

送信されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。

*Interleaved 25 チェック
デジットを送信

100431

送信しない



100430



3.3.3 EAN-13 に変換する

次の要件が満たされる場合、14 文字バーコードを EAN-13 に変換するかどうかを決定します。

- ▶ バーコードには先頭の 0 と有効な EAN-13 チェックデジットが付いている必要があります。
- ▶ 「Verify Check Digit (チェックデジットの確認)」を無効にする必要があります。

EAN-13 に変換



102101

*変換しない



102100

3.3.4 コード長必要条件

「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。

- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の中間に位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大 2 つの固定長を指定できます。

注記: 指定の長さには、バーコードが含むチェックデジットを含む必要があります。

- 1) バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします。

*最大/最小長(1~55)を
有効にする...



100605

固定長を有効にする...



100604

- 2) 最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。
最小長または固定長 2 に対して手順 2~4 を繰り返します。

最大長(*55)または固定
長 1



100606

最小長(*4)または固定
長 2



100607

- 3) 目的の長さについては、[10 進値](#)バーコードを読み取ります。
- 4) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



3.4 コード 25 — MATRIX 25

有効



100311

*無効



100310

3.4.1 チェックデジットを確認する

チェックデジットを確認するかどうかを決定します。間違っている場合、バーコードは受け入れられません。

Matrix 25 チェックデジットを確認



100433

*確認しない



100432

3.4.2 チェックデジットを送信する

送信されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。

*Matrix 25 チェックデジットを送信



100435

送信しない



100434



3.4.3 コード長必要条件

「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。

- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の間位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大 2 つの固定長を指定できます。

注記: 指定の長さには、バーコードが含むチェックデジットを含む必要があります。

- 1) バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします。

*最大/最小長(1~55)を
有効にする…



固定長を有効にする…



- 2) 最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。
最小長または固定長 2 に対して手順 2~4 を繰り返します。

最大長(*55)または固定
長 1



最小長(*4)または固定
長 2



- 3) 目的の長さについては、「[10 進値](#)」バーコード を読み取ります。
- 4) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



3.5 コード 25 — CHINESE 25

有効



102015

*無効



102014

3.6 ITALIAN PHARMACODE (CODE 32)

有効



100303

*無効



100302

注記: 最初に Code 39 を有効にする必要があります。



3.7 CODE 39

*有効



100301

無効



100300

3.7.1 チェックデジットを確認する

チェックデジットが間違っている場合、バーコードは受け入れられません。

Code 39 チェックデジット
を確認



100405

*確認しない



100404

3.7.2 チェックデジットを送信する

送信されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。

*Codex 39 チェックデジ
ットを送信



100407

送信しない



100406

3.7.3 標準/FULL ASCII (フルアスキー) CODE 39

すべての英数字と特殊文字を含む Code 39 Full ASCII をサポートするかどうかを決定します。

Code 39 Full ASCII



100401

*標準 Code 39



100400

注記: Trioptic Code 39 と Code 39 Full ASCII は、同時に有効にすることができません。



3.7.4 コード長必要条件

「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。

- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の間位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大2つの固定長を指定できます。

注記: 指定の長さには、バーコードが含むチェックデジットを含む必要があります。

- 1) バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします。

*最大/最小長(1~55)を
有効にする…



固定長を有効にする…



- 2) 最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。
最小長または固定長 2 に対して手順 2~4 を繰り返します。

最大長(*55)または固定
長 1



最小長(*4)または固定
長 2



- 3) 目的の長さについては、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 4) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



3.8 TRIOPTIC CODE 39

Trioptic Code 39 をデコードするかどうかを決定します。

- ▶ Trioptic Code 39 は、コンピュータタップカートリッジのマーキングで使用する Code 39 の異形です。常に 6 つの文字が含まれます。



注記: Trioptic Code 39 と Code 39 Full ASCII は、同時に有効にすることができません。

3.9 CODE 93



3.9.1 コード長必要条件

「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。

- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の間位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大 2 つの固定長を指定できます。

注記: 指定の長さには、バーコードが含むチェックデジットを含む必要があります。

- 1) バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします。



*最大/最小長(1~55)を
有効にする…



固定長を有効にする…



- 2) 最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。
最小長または固定長 2 に対して手順 2~4 を繰り返します。

最大長(*55)または固定
長 1



最小長(*4)または固定
長 2



- 3) 目的の長さについては、「[10 進値](#)」バーコード を読み取ります。
4) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

3.10 CODE 128

*有効



無効



3.11 GS1-128 (EAN-128)

*有効



無効



注記: GS1-128 バーコードは、設定が有効なときのみデコードできます。



3.11.1 CODE ID を送信する

送信されるデータに Code ID (「C1」)を含めるかどうかを決定します。

GS1-128 Code ID を送信



*送信しない



3.11.2 フィールド区切り文字(GS 文字)

フィールド区切り文字(FNC1 制御文字を人間が読める文字に変換する)を適用するかどうかを決定します。

フィールド区切り記号を有効にする



- 1) フィールド区切り文字を有効にするには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

注記: GS1-128 バーコードは Code 128 の他の使用と混同されないように FNC1 制御文字で始まります。FNC1 は、GS1-128 バーコードのデータフィールドを区切るするためにも使用されます。

3.11.3 GS1 フォーマット

GS1-128 の GS1 フォーマットを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、Code ID の送信は無効になります。しかし、フィールド区切り文字とアプリケーション識別子は出力データに自動的に追加されます。

GS1 フォーマットを有効にする



*GS1 フォーマットを無効にする



3.11.4 アプリケーション識別子

GS1 データをフォーマットしているとき、それにラベルを付ける目的でアプリケーション識別子(AI)の左(AIMark1)または右(AIMark2)に、Application ID マーク(1 文字長)を追加することができます。



- 1) Application ID の左(AIMark1)/右(AIMark2)にマークを追加するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字については、「[16 進値](#)」バーコード読み取ります。AI マークを削除したい場合は、「00」を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



3.12 ISBT 128

*有効



無効



3.12.1 ISBT 連結

ISBT バーコードのペアをデコードし連結するかどうかを決定します。

- ▶ ISBT 連結を無効にする
発生する ISBT バーコードのペアを連結しません。
- ▶ ISBT 連結を有効にする
スキャナーがデコードし連結を実行するには、2 つの ISBT バーコードがなければなりません。ISBT バーコードが 1 つの場合はデコードしません。
- ▶ ISBT 連結の自動識別
ISBT バーコードのペアを直ちにデコードして連結します。ISBT バーコードが 1 つしか存在しない場合、スキャナーはそのデータを送信する前に 10 回デコードして追加の ISBT バーコードがないことを確認します。

無効



有効



*自動識別



3.12.2 ISBT 連結冗長性

ISBT 連結が有効になっているとき、連結冗長性を指定します(2～20 回)。

ISBT 連結超冗長性 2～
20(*10)



- 1) 連結冗長性を指定するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の冗長性については、「[10 進値](#)」バーコード を読み取ります。
- 3) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



3.13 GS1 DATABAR (RSS ファミリー)

これは、次の 3 つのグループに分類されます。

グループ I — GS1 DataBar Omnidirectional (データバー標準型)(RSS-14)

このグループは、次で構成されます。

- ▶ GS1 DataBar Omnidirectional (データバー標準型)
- ▶ GS1 DataBar Truncated (データバー切詰型)
- ▶ GS1 DataBar Stacked (データバー二層型)
- ▶ GS1 DataBar Stacked Omnidirectional (データバー標準二層型)

Group II — GS1 DataBar Expanded (データバー拡張型) (RSS 拡張型)

このグループは、次で構成されます。

- ▶ GS1 DataBar Expanded (データバー拡張型)
- ▶ GS1 DataBar Expanded Stacked (データバー拡張二層型)

Group III — GS1 DataBar Limited (データバー限定型) (RSS 限定型)

このグループは、次で構成されます。

- ▶ GS1 DataBar Limited (データバー限定型)

3.13.1 CODE ID を選択する

使用する目的の Code ID を選択します。

- ▶ 「]e0」(GS1 DataBar Code ID)
- ▶ 「]C1」(GS1-128 Code ID)

Use “]C1” (「]C1」を使用)



*Use “]e0” (「]e0」を使用)



3.13.2 GS1 DATABAR OMNIDIRECTIONAL (データバー標準型)(RSS-14)

RSS-14 & RSS 拡張
型を有効にする
(グループ I、II)



*無効



GS1 DataBar Omnidirectional の GS1 フォーマットが有効になっているとき、Code ID 送信は無効になりますが、Application ID 送信は自動的に有効になります。

以下の設定はグループ I のシンボル体系に適用されます。

- ▶ GS1 DataBar Omnidirectional (データバー標準型)
- ▶ GS1 DataBar Truncated (データバー切詰型)
- ▶ GS1 DataBar Stacked (データバー二層型)
- ▶ GS1 DataBar Stacked Omnidirectional (データバー標準二層型)

Code ID の送信

送信されるデータに Code ID を含めるかどうかを決定します。

*AIM Code ID を送信



送信しない



Application ID の送信

送信されるデータに Code ID (「01」)を含めるかどうかを決定します。

*RSS-14 Application ID
を送信



送信しない



GS1 DataBar Omnidirectional(GSI データバー標準型)の GS1 フォーマットティング

GS1 DataBar Omnidirectional の GS1 フォーマットティングを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、フィールド区切り記号とアプリケーション識別子は出力データに自動的に追加されます。

GS1 フォーマットティング
を有効にする



*GS1 フォーマットティ
ングを無効にする



3.13.3 GS1 DATABAR EXPANDED (データバー拡張型) (RSS 拡張型)

RSS-14 &RSS 拡張型を
有効にする
(グループ I、II)



*無効



GS1 DataBar Expanded の GS1 フォーマットティングが有効になっているとき、Code ID 送信は無効になります。
以下の設定はグループ II のシンボル体系に適用されます。

- ▶ GS1 DataBar Expanded (データバー拡張型)
- ▶ GS1 DataBar Expanded Stacked (データバー拡張二層型)

Code ID の送信

送信されるデータに Code ID を含めるかどうかを決定します。

*RSS 拡張型 Code ID を
送信



送信しない



GS1 DataBar Expanded(GSI データバー拡張型)の GS1 フォーマットティング

GS1 DataBar Expanded の GS1 フォーマットティングを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、フィールド区切り記号とアプリケーション識別子は出力データに自動的に追加されます。

GS1 フォーマットティング
を有効にする



*GS1 フォーマットティ
ングを無効にする



3.13.4 GS1 DATABAR LIMITED (データバー限定型) (RSS 限定型)

RSS 限定型を有効にす
る
(グループ III)



*無効



GS1 DataBar Limited の GS1 フォーマットティングが有効になっているとき、Code ID 送信は無効になりますが、Application ID 送信は自動的に有効になります。

Code ID の送信

送信されるデータに Code ID を含めるかどうかを決定します。

*RSS 限定型 Code ID を
送信



送信しない



Application ID の送信

送信されるデータに Code ID (「01」)を含めるかどうかを決定します。

*RSS 限定型 Application
ID を送信



送信しない



100530

GS1 DataBar Limited(データバー限定型)の GS1 フォーマット

GS1 DataBar Limited の GS1 フォーマットを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、フィールド区切り記号とアプリケーション識別子は出力データに自動的に追加されます。

GS1 フォーマット
を有効にする



101488

*GS1 フォーマット
を無効にする



101487

3.13.5 UPC/EAN に変換する

これは、Composite バーコードの一部としてデコードされていない GS1 DataBar Omnidirectional および GS1 DataBar Limited バーコードにのみ適用されます。

- ▶ EAN-13 に変換: バーコードから先頭の「010」を取り去ります。
「01」は Application ID で、次にゼロが 1 つ続く必要があります(符号化された最初の小数)。
- ▶ UPC-A に変換: バーコードから先頭の「0100」を取り去ります。
「01」は Application ID で、次にゼロが 2 つまたは 3 つ続く必要があります(しかし、ゼロは 6 つ続かない)。

UPC/EAN に変換する



102103

*変換しない



102102

3.13.6 フィールド区切り文字(GS 文字)

フィールド区切り記号(GS 制御文字を人間が読める文字に変換する)を適用するかどうかを決定します。GS1 フォーマットが有効になっているとき、フィールド区切り記号はデータに自動的に追加されます。

フィールド区切り記号を
有効にする…



100616

- 1) フィールド区切り記号を指定するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



3.13.7 アプリケーション識別子

GS1 データをフォーマットしているとき、それにラベルを付ける目的で Application ID (AI)の左(AIMark1)または右(AIMark2)に、Application ID マーク(1 文字長)を追加することができます。



- 1) Application ID の左(AIMark1)/右(AIMark2)にマークを追加するには、上のバーコードを読取ります。
- 2) 目的の文字については、「[16 進値](#)」バーコード読み取ります。AI マークを削除したい場合は、「00」を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



3.14 MSI

有効



100345

*無効



100344

3.14.1 チェックデジットを確認する

バーコードをデコードしているとき、チェックデジットを確認するために 3 つの計算の 1 つを選択します。間違っている場合、バーコードは受け入れられません。

*シングルモジュロ 10



100448

ダブルモジュロ 10



100449

Modulo 10 & 11(モジュロ
10 & 11)

100450

3.14.2 チェックデジットを送信する

*最後のデジットを送信
しない

100452

両方のデジットを送信



100453

両方のデジットを送信し
ない

100454



3.14.3 コード長必要条件

「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。

- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の間に位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大2つの固定長を指定できます。

注記: 指定の長さには、バーコードが含むチェックデジットを含む必要があります。

- 1) バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします。

*最大/最小長(1~55)を
有効にする…



固定長を有効にする…



- 2) 最大長または固定長1のバーコードを読み取り、手順3~4に従います。
最小長または固定長2に対して手順2~4を繰り返します。

最大長(*55)または固定
長1



最小長(*4)または固定
長2



- 3) 目的の長さについては、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 4) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



3.15 EAN-8

EAN-8

*EAN-8 を有効にする
(Addon なし)



100327

無効



100326

EAN-8 Addon 2

EAN-8 Addon 2 を有効
にする



100329

*無効



100328

EAN-8 Addon 5

EAN-8 Addon 5 を有効
にする



100331

*無効



100330

3.15.1 チェックデジットを送信する

送信されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。

*EAN-8 チェックデジット
を送信



100471

送信しない



100470



3.16 EAN-13

EAN-13

*EAN-13 を有効にする
(Addon なし)



無効



Addon 2 付きの EAN-13 バーコードをデコードするかどうかを決定します。

EAN-13 Addon 2

EAN-13 Addon 2 を有効
にする



*無効



Addon 5 付きの EAN-13 バーコードをデコードするかどうかを決定します。

EAN-13 Addon 5

EAN-13 Addon 5 を有効
にする



*無効



3.16.1 ISBN に変換する

978 と 979 で開始する EAN-13 バーコードを ISBN に変換するかどうかを決定します。

EAN-13 を ISBN に変換
する



100463

*変換しない



100462

3.16.2 ISSN に変換する

977 で開始する EAN-13 バーコードを ISSN に変換するかどうかを決定します。

EAN-13 を ISSN に変換
する



100465

*変換しない



100464

3.16.3 チェックデジットを送信する

送信されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。

*EAN-13 チェックデジ
ットを送信する



100473

送信しない



100472



3.17 UCC COUPON 拡張型コード

Coupon Code として、次のバーコードをデコードするかどうかを決定します。

- ▶ 数字「5」で始まる UPC-A バーコード
- ▶ 数字「99」で始まる EAN-13 バーコード
- ▶ UPC-A/EAN-128 Coupon Codes

有効



*無効



注記: 要件によっては、まず UPC-A、EAN-13、EAN-128 を有効にする必要があります!

3.18 UPC-A

UPC-A

*UPC-A を有効にする
(Addon なし)



無効



UPC-A Addon 2

UPC-A Addon 2 を有効
にする



*無効



UPC-A Addon 5

UPC-A Addon 5 を有効にする



*無効



3.18.1 EAN-13 に変換する

UPC-A バーコード、およびその Addon を EAN-13 に拡張するかどうかを決定します。

- ▶ 変換後、データは EAN-13 フォーマットに従い、EAN-13 プログラミングセレクション(例えば、チェックデジット)が適用されます。

UPC-A を EAN-13 に変換する



*変換しない



3.18.2 システム番号を送信する

送信されるデータにシステム番号を含めるかどうか決定します。

*UPC-A システム番号を送信する



送信しない



3.18.3 チェックデジットを送信する

送信されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。

*UPC-A チェックデジットを送信する



送信しない



3.19 UPC-E

UPC-E

*UPC-E を有効にする
(Addon なし)



無効



UPC-E Addon 2

UPC-E Addon 2 を有効
にする



*無効



UPC-E Addon 5

UPC-E Addon 5 を有効
にする



*無効



3.19.1 システム番号を選択する

普通の UPC-E バーコードのみか、あるいは UPC-E0 と UPC-E1 バーコードの両方をデコードするかどうかを決定します。

- ▶ システム番号 0 UPC-E0 バーコードをデコード
- ▶ システム番号 1 UPC-E1 バーコードデコード

システム番号 0 と 1



*システム番号 0 のみ



3.19.2 UPC-A に変換する

UPC-E バーコード、およびその Addon を UPC-A に拡張するかどうかを決定します。

- ▶ 変換後、データは UPC-A フォーマットに従い UPC-A プログラミングセレクション(例えば、システム番号、チェックデジット)が適用されます。

UPC-E を UPC-A に変換



*変換しない



3.19.3 システム番号を送信する

送信されるデータにシステム番号を含めるかどうか決定します。

UPC-E システム番号を送信する



*送信しない



3.19.4 チェックデジットを送信する

送信されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。

*UPC-E チェックデジットを送信する



送信しない



3.20 CODE 11

有効



102007

*無効



102006

3.20.1 チェックデジットを確認する

チェックデジットを確認するかどうかを決定します。間違っている場合、バーコードは受け入れられません。

1 つの チェックデジット
を確認する



102244

2 つの チェックデジット
を確認する



102245

*確認しない



102243

3.20.2 チェックデジットを送信する

送信されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。

Codex 11 チェックデジ
ットを送信する)



102107

*送信しない



102106

注記: まず、「Verify Check Digit (チェックデジットの確認)」を有効にする必要があります。



3.20.3 コード長必要条件

「短いスキャン」エラーを防ぐために、「長さの必要条件」設定を定義して許容可能なコード長を適格とすることにより、正しいバーコードが読み取られていることを確認します。

- ▶ 「最大/最小長」が選択されている場合、最大長と最小長を指定できます。スキャナーは、指定された最大/最小長の間位置する長さのバーコードのみを受け入れます。
- ▶ 「固定長」が選択されている場合、最大 2 つの固定長を指定できます。

注記: 指定の長さには、バーコードが含むチェックデジットを含む必要があります。

- 1) バーコードを読み取り、最大/最小長さの必要条件または固定長の必要条件のいずれかを有効にします。

*最大/最小長(1~55)を
有効にする…



固定長を有効にする…



- 2) 最大長または固定長 1 のバーコードを読み取り、手順 3~4 に従います。
最小長または固定長 2 に対して手順 2~4 を繰り返します。

最大長(*55)または固定
長 1



最小長(*4)または固定
長 2



- 3) 目的の長さについては、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 4) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



3.21 COMPOSITE CODE(コンポジットコード)

3.21.1 COMPOSITE CC-A/B

Composite CC-A/B を有効にする



*無効



Composite CC-A/B に対して GS1 フォーマットを有効にするか決定します。有効の場合、フィールド区切り記号とアプリケーション識別子は出力データに自動的に追加されます

GS1 フォーマットを有効にする



*GS1 フォーマットを無効にする



3.21.2 COMPOSITE CC-C

Composite CC-C を有効にする



*無効



Composite CC-C に対して GS1 フォーマットを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、フィールド区切り記号とアプリケーション識別子は出力データに自動的に追加されます。

GS1 フォーマットを有効にする



* GS1 フォーマットを無効にする



3.21.3 COMPOSITE TLC-39

Composite TLC-39 を有効にする



*無効



3.21.4 UPC COMPOSITE モード

UPC バーコードは 1 つのバーコードであるかのように、2D バーコードに「リンクすることができます。

- ▶ UPC をリンクしない
2D バーコードが検出されているかどうかに関係なく、UPC バーコードを送信します。
- ▶ UPC を常にリンク
UPC バーコードと 2D 部分を送信。2D 部分が検出されない場合、UPC バーコードは送信されません。

注記: CC-A/B または CC-C を有効にする必要があります!

- ▶ UPC Composite を自動識別する: 2D 部分だけでなく UPC バーコードも送信します。

UPC をリンクしない



UPC を常にリンクする



自動識別



3.21.5 UCC/EAN COMPOSITE CODE 用の GS1-128 エミュレーションモード

UCC/EAN Composite Code のデータが、GS1-128 バーコードでエンコードされたかのように送信するかどうかを決定します。

GS1-128 エミュレーションモードを有効にする



*無効



3.21.6 フィールド区切り文字(GS 文字)

フィールド区切り記号(GS 制御文字を人間が読める文字に変換する)を適用するかどうかを決定します。GS1 フォーマットが有効になっているとき、フィールド区切り記号はデータに自動的に追加されます。

フィールド区切り記号を有効にする…



- 1) フィールド区切り記号を指定するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

3.21.7 アプリケーション識別子

GS1 データをフォーマットしているとき、それにラベルを付ける目的で Application ID (AI)の左(AIMark1)または右(AIMark2)に、Application ID マーク(1 文字長)を追加します。。GS1 フォーマットが有効のとき、Application ID マークは自動的に追加されます。

AIMark1



AIMark2



- 1) Application ID の左(AIMark1)/右(AIMark2)にマークを追加するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) [16 進法](#)」バーコードを読み取ります。AI マークを削除する場合は、「00」を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



3.22 US POSTAL コード

3.22.1 US POSTNET

*US Postnet を有効にする



102017

無効



102016

3.22.2 US PLANET

*US Planet を有効にする



102019

無効



102018

3.22.3 チェックデジットを送信する

送信されるデータにチェックデジットを含めるかどうか決定します。

*US Postal チェックデジットを送信する



102111

送信しない



102110



3.23 UK POSTAL コード

3.23.1 UK POSTAL

*UK Postal を有効にする



無効



3.23.2 チェックデジットを送信する

*UK Postal チェックデジットを送信する



送信しない



3.24 その他の郵便番号

3.24.1 日本郵便

*日本郵便を有効にする



無効



3.24.2 AUSTRALIAN POSTAL

*Australian Postal を有効にする



無効



3.24.3 DUTCH POSTAL

*Dutch Postal を有効にする



102027

無効



102026

3.24.4 USPS 4CB/1 コード/インテリジェントメール

USPS 4CB/ 1 コード/ インテリジェントメールを有効にする



102029

*無効



102028

3.24.5 UPU FICS POSTAL

UPU FICS Postal を有効にする



102031

*無効



102030



3.25 2D シンボル体系

3.25.1 PDF417

*PDF417 を有効にする



102033

無効



102032

3.25.2 MICROPDF417

PDF417 を有効にする



102035

*無効



102034



3.25.3 DATA MATRIX

*Data Matrixを有効にする



無効



GS1 フォーマット

GS1-Data Matrix バーコードの GS1 フォーマットを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、フィールド区切り記号とアプリケーション識別子は出力データに自動的に追加されます。

有効



*無効



フィールド区切り文字

フィールド区切り文字(GS 制御文字を人間が読める文字に変換する)を適用するかどうかを決定します。GS1 フォーマットが有効になっているとき、フィールド区切り文字はデータに自動的に追加されます。

フィールド区切り文字を有効にする…



- 1) フィールド区切り文字を指定するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

アプリケーション識別子

GS1 データをフォーマットしているとき、それにラベルを付ける目的で Application ID (AI)の左(AIMark1)または右(AIMark2)に、Application ID マーク(1 文字長)を追加することができます。





- 1) Application ID の左(AIMark1)/右(AIMark2)にマークを追加するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字については、「[16 進値](#)」バーコード読み取ります。AI マークを削除したい場合は、「00」を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

DATA MATRIX ミラー

ミラー画像の Data Matrix バーコードをデコードするかどうかを決定します。

- ▶ デコードしない — ミラー画像である Data Matrix バーコードをデコードしません。
- ▶ 常にデコードする — ミラー画像であるデータマトリクスバーコードをデコードします。
- ▶ 自動 — ミラードおよびアンミラードデータマトリクスバーコードをどちらもデコードします。



3.25.4 マキシコード





3.25.5 QRコード

*QR Code を有効にする



102041

無効



102040

GS1 フォーマットティング

GS1-Data QR Code バーコードの GS1 フォーマットティングを有効にするかどうかを決定します。有効になっているとき、フィールド区切り記号と Application ID マークは出力データに自動的に追加されます。

有効



101472

*無効



101471

フィールド区切り文字(GS 文字)

フィールド区切り文字(GS 制御文字を人間が読める文字に変換する)を適用するかどうかを決定します。GS1 フォーマットティングが有効になっているとき、フィールド区切り文字はデータに自動的に追加されます。

フィールド区切り文字を
有効にする…



100616

- 1) フィールド区切り文字を指定するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

アプリケーション識別子

GS1 データをフォーマットティングしているとき、それにラベルを付ける目的で Application ID (AI)の左(AIMark1)または右(AIMark2)に、Application ID マーク(1 文字長)を追加することができます。



AIMark1



100620

AIMark2



100621

- 1) Application ID の左(AIMark1)/右(AIMark2)にマークを追加するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字については、「[16 進値](#)」バーコード読み取ります。AI マークを削除したい場合は、「00」を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

3.25.6 MICROQR

*MicroQR を有効にする



102043

無効



102042

3.25.7 AZTEC

*Aztec を有効にする



102045

無効



102044



3.26 MACRO PDF

マクロ PDF は、複数の PDF バーコードを 1 つのファイルに連結するための特殊な機能で、マクロ PDF417 またはマクロ MicroPDF417 として知られています。

注記: バーコードを印刷しているとき、それぞれのマクロ PDF はそれぞれ固有の識別子を持っているため、シーケンスは別々にしておいてください。たとえ同じデータを符号化している場合でも、複数のマクロ PDF シーケンスからのバーコードを混ぜ合わせないでください。マクロ PDF シーケンスをスキャンするとき、途切れることなくマクロ PDF シーケンス全体をスキャンしてください!

3.26.1 送信/デコードモード

マクロ PDF デコードを処理する方法を決定します。

- ▶ 完了時にすべてのシンボルをバッファ/ マクロ PDF を送信
シーケンス全体がスキャンされデコードされたときのみ、マクロ PDF シーケンス全体からデコードされたすべてのデータを送信します。デコードされたデータが 50 シンボルの制限を超えると、シーケンス全体がスキャンされなかったため送信はおこなわれません!
- ▶ 任意のシンボルをセットで送信 / 特定の順序なし
シーケンスにはかかわりなく、デコード済みとしてそれぞれのマクロ PDF シンボルからデータを送信します。
- ▶ すべてのシンボルをパススルー
すべてのマクロ PDF シンボルを送信し、処理を行いません。このモードで、ホストがマクロ PDF シーケンスを検出し解析する必要があります。

完了時にすべてのシンボルをバッファ/ マクロ
PDF を送信



任意のシンボルをセットで送信 / 特定の順序なし



*すべてのシンボルをパススルー



3.26.2 エスケープキャラクター

有効になっているとき、特殊なデータシーケンスを含む送信を処理できるシステムの場合、エスケープキャラクターとして「¥」を使用します。グローバルラベル識別子(GLI)プロトコルに従って特殊データをフォーマットし、マクロ PDF シンボルの送信部分にのみ影響を及ぼします。コントロールヘッダーは、有効になっていれば、常に GLI フォーマットと共に関連送信されます。

GLI プロトコル



102198

*なし



102196

3.26.3 コントロールヘッダーを送信する

コントロールヘッダーにはセグメントインデックスとフィールド ID が含まれています。例えば、フィールドが「¥92800000¥725¥120¥343」とします。¥928 の後の 5 桁はセグメントインデックス(またはブロックインデックス)で、¥725¥120¥343 はフィールド ID です。

- ▶ 「任意のシンボルをセットで送信 / 特定の順序なし」を選択しているとき、これを有効にします。
- ▶ 「完了時にすべてのシンボルをバッファ / マクロ PDF を送信」を選択しているとき、これを無効にします。
- ▶ 「すべてのシンボルをパススルー」を選択しているとき、このオプションは効果がありません。

コントロールヘッダーを
送信する



102195

*送信しない



102194



出力フォーマットを定義する

収集したデータをホストコンピュータに出力するフォーマットを設定できます。。

- 1) スキャンされたデータ上で文字の置換を実行します。
- 2) [Code ID](#) と [長さコード](#) を データの前に追加します:[Code ID][Length Code][Data]
- 3) ユーザーフォーマットのステップ 2 でデータ全体を処理します。ユーザー指定の規則により、データはフィールドに分割されます。[第 6 章 データ編集用のフォーマットを適用する](#)を参照してください。
- 4) [プリフィックス コード](#) と [サフィックスコード](#) を追加してから送信します:[Prefix Code][Processed Data][Suffix Code]

本章の目次

4.1 大文字・小文字の区別	113
4.2 文字置換	114
4.3 プリフィックス/サフィックスコード	127
4.4 Code ID	128
4.5 長さコード	135
4.6 マルチバーコードエディタ	145
4.7 特定文字の削除	149
4.8 AIM Code ID	149

4.1 大文字・小文字の区別

デフォルトで、アルファベット送信は大文字と小文字を区別します。つまり、アルファベットの
大文字・小文字はその元の文字通りに送信されます。元の大文字・小文字を無視するには、
[Upper Case (大文字)]を選択して大文字でのみデータを出力します。または、
[Lower Case (小文字)]を選択して小文字のみでデータを出力します。

*通常



大文字



小文字



4.2 文字置換

「置換される」文字と、その文字を「置換」する文字を指定します。「置換される」文字のみが設定された場合はその文字が削除されます。

- ▶ 最初の設定した文字が2番目に設定した文字に置き換えられます。
- ▶ 3 セットまでの文字置換を設定できます。
- ▶ 「BT HID」、「USB HID」、「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、[キータイプ](#)と[キーステータス](#)が適用されます。キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを適用するかどうかを決定できます。

キータイプ		キーステータス
スキャンコード	スキャンコード値は1つのみ許可されます。「4.2.1」を参照してください。	N/A
通常キー	最大3文字列まで許可されます。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ Shift の追加 ▶ 左 Ctrl の追加 ▶ Alt の追加 ▶ 右 Ctrl の追加 ▶ 右 Alt の追加 「キーボードウェッジ表」を参照してください。

注記: 文字置換は、バーコード自体で、編集フォーマットの処理前にのみ行われます。文字置換はプリフィックス/サフィックスコード、Code ID、長さコード、任意の追加フィールドには適用されません。

4.2.1 文字置換のセットを選択する

設定セット 1



101232

設定セット 2



101233

設定セット 3



101234

- 1) セットごとに文字置換を有効にするには、上のバーコードを読み取ります。
例えば、スキャナーに「セット 1」のバーコードを読み取らせると、文字置換の最初の設定が実行されます。スキャナーから高いトーン、短いビープ音を1回返されると、セットアップバーコードがさらに必要なことを示しています。



2) 「[16 進値](#)」バーコードをお読みください。例:

キータイプ = 通常

- ▶ “3”, “0”, “2” と “D” を読み取り、文字 “0” をダッシュ “-” で置き換える。
- ▶ “3”, “0”, “2”, “D”, “3” と “0” を読み取り、文字 “0” をダッシュ “-0” で置き換える。

キータイプ = スキャンコード

文字 “0” を “a” (= スキャンコード表の “1C”) に置き換えたい場合:

1. “3” と “0” を読み取ります。
2. “Scan Code” バーコードを読み取ります。
3. “1” と “C” を読み取ります。

キータイプ = 通常 + キーステータス = SHIFT

文字 “0” を “!” に置き換えたい場合 (= キーボードの “Shift” + “1”):

1. “3” と “0” を読み取ります。
2. “Shift の追加” バーコードを読み取ります。
3. “3” と “1” を読み取ります。

3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。(デフォルトで、定義された 1 つまたは複数のセットはすべてのシンボル体系に適用されます。)

4.2.2 文字置換用のシンボル体系 (3 セットすべて)

デフォルトで、文字置換はすべてのシンボル体系で実行されます。1 つ以上のシンボル体系に目的のシンボル体系がない場合、不要なシンボル体系のそれぞれに対して「適用しない」バーコードを読み取ると、3 つのセットすべてが無視されます。

Codabar 用の文字置換

*適用



101253

適用しない



101252

Code 39 用の文字置換

*適用



101241



適用しない



Trioptic Code 39 用の文字置換

*適用



適用しない



Code 93 用の文字置換

*適用



適用しない



Code 128 用の文字置換

*適用



適用しない



GS1-128 用の文字置換

*適用



適用しない



ISBT 128 用の文字置換

*適用	 101293
適用しない	 101292

EAN-8 (Addon なし)用の文字置換

*適用	 101267
適用しない	 101266

EAN-8 Addon 2 用の文字置換

*適用	 101269
適用しない	 101268

EAN-8 Addon 5 用の文字置換

*適用	 101271
適用しない	 101270



EAN-13 (Addon なし)用の文字置換

*適用	 101273
適用しない	 101272

EAN-13 Addon 2 用の文字置換

*適用しない	 101275
適用しない	 101274

EAN-13 Addon 5 用の文字置換

*適用しない	 101277
適用しない	 101276

Italian Pharmacode 用の文字置換

*適用	 101243
適用しない	 101242



Industrial 25 用の文字置換

*適用



101247

適用しない



101246

Interleaved 25 用の文字置換

*適用



101249

適用しない



101248

Matrix 25 用の文字置換

*適用



101251

適用しない



101250

Chinese 25 用の文字置換

*適用



102617

適用しない



102616



MSI 用の文字置換

***適用しない****適用しない****GS1 DataBar 用の文字置換**

***適用****適用しない****UPC-A (Addon なし) 用の文字置換**

***適用****適用しない****UPC-A Addon 2 用の文字置換**

***適用****適用しない**

UPC-A Addon 5 用の文字置換

*適用	 101283
適用しない	 101282

UPC-E (Addon なし)用の文字置換

*適用	 101261
適用しない	 101260

UPC-E Addon 2 用の文字置換

*適用	 101263
適用しない	 101262

UPC-E Addon 5 用の文字置換

*適用	 101265
適用しない	 101264



UCC Coupon Extended Code 用の文字置換

*適用



適用しない



Code 11 用の文字置換

*適用



適用しない



Composite CC-A/B 用の文字置換

*適用



適用しない



Composite CC-C 用の文字置換

*適用



適用しない



Composite TLC-39 用の文字置換

*適用	 102615
適用しない	 102614

US Postnet 用の文字置換

*適用	 102619
適用しない	 102618

US Planet 用の文字置換

*適用	 102621
適用しない	 102620

UK Postal 用の文字置換

*適用	 102623
適用しない	 102622



日本郵便用の文字置換

***適用**



102625

適用しない



102624

Australian Postal 用の文字置換

***適用**



102627

適用しない



102626

Dutch Postal 用の文字置換

***適用**



102629

適用しない



102628

USPS 4CB/1 コード/インテリジェントメール用の文字置換

***適用**



102631

適用しない



102630



UPU FICS Postal 用の文字置換

*適用	 102633
適用しない	 102632

PDF417 用の文字置換

*適用	 102635
適用しない	 102634

MicroPDF417 用の文字置換

*適用	 102637
適用しない	 102636

Data Matrix 用の文字置換

*適用	 102639
適用しない	 102638



Maxicode 用の文字置換

*適用



102641

適用しない



102640

QR Code 用の文字置換

*適用



102643

適用しない



102642

MicroQR 用の文字置換

*適用



102645

適用しない



102644

Aztec 用の文字置換

*適用



102647

適用しない



102646



4.3 プリフィックス/サフィックスコード

デフォルトで、プリフィックスコードはなく、[ENTER]または[CR]（キャリッジリターン）がサフィックスコードになるように設定されています。例えば、「Barcode_」などのように 8 文字まで設定可能なため、この「Barcode_1234567890」のようにバーコード読み取りの前に文字列を表示させることができます

- ▶ 「BT HID」、「USB HID」、「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、[キータイプ](#)と[キーステータス](#)が適用されます。キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを適用するかどうかを決定できます。

キータイプ		キーステータス
キーコード	最大 4 つのスキャンコード値が許可されます。	N/A
通常キー	最大 8 つの文字列が許可されます。	<ul style="list-style-type: none">▶ Shift の追加▶ 左 Ctrl の追加▶ 左 Alt の追加▶ 右 Ctrl の追加▶ 右 Alt の追加 キーウェッジ表を参照してください。

プリフィックスの設定



サフィックスの設定



- 1) プリフィックスコードまたはサフィックスコードを別々に適用するには、上のバーコードを読み取り、手順 2～3 に従います。(それぞれ、最大 8 文字)
- 2) 目的の文字置換については、「[16 進値](#)」バーコードをお読みください。例えば、先頭または末尾に「+」の文字を置く場合、「2」と「B」を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



4.4 CODE ID

Code ID では、2 文字までをそれぞれのシンボル体系に対して設定できます。Code ID をより簡単に設定できるように、5 つの定義済み CodeID セットが用意されています。

- ▶ 「BT HID」、「USB HID」、「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、[キータイプ](#)と[キーステータス](#)が適用されます。キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを適用するかどうかを決定できます。

キータイプ		キーステータス
スキャンコード	スキャンコード値は1つのみ許可されます。	N/A
通常キー	最大 2 文字列まで許可されます。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ Shift の追加 ▶ 左 Ctrl の追加 ▶ Alt の追加 ▶ 右 Ctrl の追加 ▶ 右 Alt の追加 キーボードウェッジ表を参照してください。

注記: 「J C1」は GS1-128 (EAN-128)バーコードの Code ID で、「J e0」は GS1 DataBar (RSS)バーコードのデフォルトの Code ID です。

4.4.1 定義済み CODE ID の選択

Code ID セット 1 の適用



Code ID セット 2 の適用



Code ID セット 3 の適用



Code ID セット 4 の適用



Code ID セット 5 の適用



Code I オプション	設定 1	設定 2	設定 3	設定 4	設定 5
Code 39	A	C	Y	M	A
Trioptic Code 39	A	C	Y	M	X
Italian Pharmacode (イタリア語のファーマコード)	A	C	Y	M	A
Industrial 25	C	H	H	H	S
Interleaved 25	D	I	Z	I	S
Matrix 25	E	G	G	G	S
Chinese 25	Q	M	P	S	X
Codabar(コーダバー)	F	N	X	N	F
Code 93	I	L	L	L	G
Code 128	H	K	K	K	C
ISBT 128	H	K	K	K	C
UPC-E	S	E	C	E	E
EAN-8	P	B	B	FF	E
EAN-13	M	A	A	F	E
UPC-A	J	A	A	A	E
MSI	V	V	D	P	M
UCC Coupon Code	G	F	I	C	C
Code 11	K	J	J	D	H
Composite CC-A/B	L	X	M	J	La
Composite CC-C	N	Y	N	O	Lc
Composite TLC-39	O	Z	O	R	L2
US Postnet	h	a	s	i	X
US Planet	i	b	t	j	X
UK Postal	j	c	u	k	X
日本郵便	k	d	v	l	X
Australian Postal	l	e	w	m	X
Dutch Postal	m	f	x	n	X
USPS 4CB/1 コード/インテリジェントメール	n	g	y	o	X
UPU FICS Postal	o	h	z	p	X
PDF417	a	O	W	T	L



MicroPDF417	b	P	V	U	L
Data Matrix	c	Q	U	V	d
Maxicode (マキシコード)	d	R	T	W	U
QR Code	e	S	S	X	Q
MicroQR	f	T	R	Y	Q
Aztec	g	U	Q	Z	z
IATA	z	z	r	h	S
Macro PDF417	p	i	a	q	L
Macro MicroPDF417	q	j	b	r	L



4.4.2 CODE ID を変更する

1) 特定のシンボル体系の CODE ID を変更するには、以下のバーコードを読み取ります。

目的の文字置換については、「[16 進値](#)」バーコードをお読みください。例えば、Code ID に対して文字[D]を適用するには、「4」と「4」を読み取ります。

この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

Codabar 用の Code ID の
設定



Configure Code ID for
Code 39



Trioptic Code 39 用の
Code ID の設定



Code 93 用の Code ID
の設定



Code 128 用の Code ID
の設定



ISBT 128 用の Code ID
の設定



EAN-8 用の Code ID の
設定



EAN-13 用の Code ID の
設定



Italian Pharmacode 用の
Code ID の設定



Industrial 25 用の Code
ID の設定



101453

Interleaved 25 用の
Code ID の設定



101454

Matrix 25 用の Code ID
の設定



101455

Chinese 25 用の Code ID
の設定



102571

MSI 用の Code ID の設
定



101463

UPC-A 用の Code ID の
設定



101462

UPC-E 用の Code ID の
設定



101459

UCC Coupon Code 用の
Code ID の設定



102565

Code 11 用の Code ID の
設定



102567

Composite CC-A/B 用
の Code ID の設定



102568

Composite CC-C 用の
Code ID の設定



102569



Composite TLC-39 用の
Code ID の設定



US Postnet 用の Code
ID の設定



US Planet 用の Code ID
の設定



UK Postal 用の Code ID
の設定



日本郵便用の Code ID
の設定



Australian Postal 用の
Code ID の設定



Dutch Postal 用の Code
ID の設定



USPS 4CB / 1 コード /
インテリジェントメール用
の Code ID の設定



UPU FICS Postal 用の
Code ID の設定



PDF417 用の Code ID の
設定



MicroPDF417 用の Code
ID の設定



Data Matrix 用の Code
ID の設定



102582

Maxicode 用の Code ID
の設定



102583

QR Code 用の Code ID
の設定



102584

MicroQR 用の Code ID
の設定



102585

Aztec 用の Code ID の設
定



102586

IATA 用の Code ID の設
定



102587

Macro PDF417 用の
Code ID の設定



102588

Macro MicroPDF417 用
の Code ID の設定



102589

4.4.3 CODE ID 設定を消去する

すべての Code ID 設定
を消去する



109960



4.5 長さコード

バーコードデータの長さ(文字数)を表す 4 桁のコードは、送信されるデータの前に付加できます。それぞれのシンボル体系について、そのような「長さ」コードは個別に有効または無効にできます。

Codabar 用の長さコード

適用	 101413
*適用しない	 101412

Code 39 用の長さコード

適用	 101401
*適用しない	 101400

Trioptic Code 39 用の長さコード

適用しない	 102505
*適用しない	 102504

Code 93 用の長さコード

適用	 101415
*適用しない	 101414



Code 128 用の長さコード

適用



101417

*適用しない



101416

GS1-128 & GS1 DataBar 用の長さコード

適用



101419

*適用しない



101418

ISBT 128 用の長さコード

適用



101435

*適用しない



101434

EAN-8 用の長さコード

適用



101423

*適用しない



101422



EAN-13 用の長さコード

適用	 101425
*適用しない	 101424

Italian Pharmacode 用の長さコード

適用	 101403
*適用しない	 101402

Industrial 25 用の長さコード

適用	 101407
*適用しない	 101406

Interleaved 25 用の長さコード

適用	 101409
*適用しない	 101408



Matrix 25 用の長さコード

適用



*適用



Chinese 25 用の長さコード

適用



*適用しない



MSI 用の長さコード

適用



*適用しない



UPC-A 用の長さコード

適用



*適用しない



UPC-E 用の長さコード

適用	 101421
*適用しない	 101420

UGC Coupon Extended Code 用の長さコード

適用	 102503
*適用しない	 102502

Code 11 用の長さコード

適用	 102507
*適用しない	 102506

Composite CC-A/B 用の長さコード

適用	 102509
*適用しない	 102508



Composite CC-C 用の長さコード

適用



*適用しない



Composite TLC-39 用の長さコード

適用



*適用しない



US Postnet 用の長さコード

適用



*適用しない



US Planet 用の長さコード

適用



*適用しない



UK Postal 用の長さコード

適用



*適用しない



日本郵使用の長さコード

適用



*適用しない



Australian Postal 用の長さコード

適用



*適用しない



Dutch Postal 用の長さコード

適用



*適用しない



USPS 4CB/1 コード/インテリジェントメール用の長さコード

適用



*適用しない



UPU FICS Postal 用の長さコード

適用



*適用しない



PDF417 用の長さコード

適用



*適用しない



MicroPDF417 用の長さコード

適用



*適用しない



Data Matrix 用の長さコード

適用	 102537
*適用しない	 102536

Maxicode 用の長さコード

適用	 102539
*適用しない	 102538

QR Code 用の長さコード

適用	 102541
*適用しない	 102540

MicroQR 用の長さコード

適用	 102543
*適用しない	 102542



Aztec 用の長さコード

適用



102545

*適用しない



102544



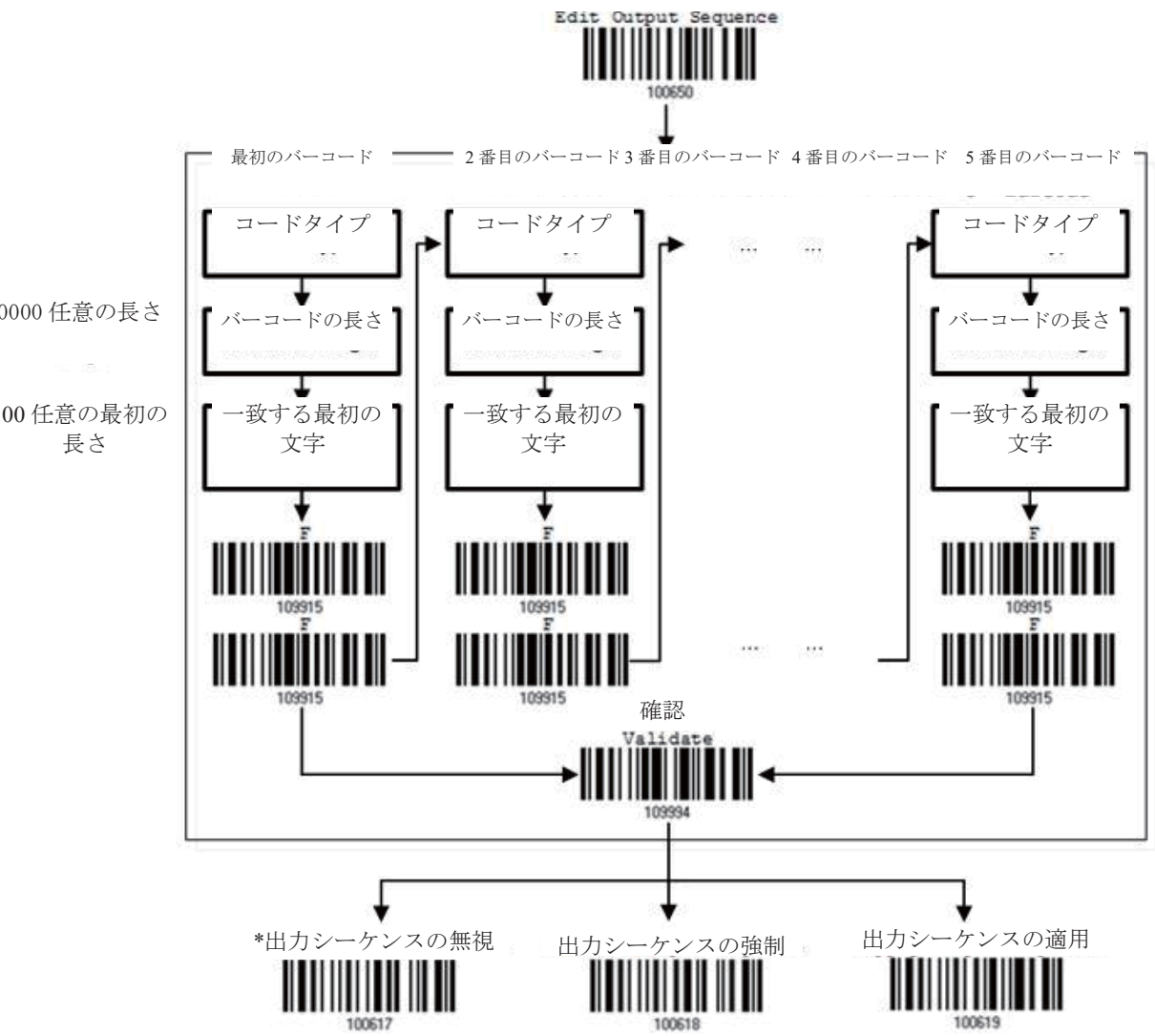
4.6 マルチバーコードエディタ

マルチバーコードエディタの設定により、設定したバーコードデータを連結して出力することが出来ます。。バーコードは、5 つ以内で指定できます。ただし連結したすべてのバーコードの最大出力データ長は 10 KB になります。データ長が 10 KB を超えると、連結は有効になりません。

注記: マルチバーコードエディタは マルチバーコードモード とは関係がありません。

以下の指定された基準に合致することが分かったバーコードは、希望するシーケンスで配列されます。

- ▶ コードタイプの一致
- ▶ プリフィックス、サフィックス、長さコードなどを除いた、4 桁のバーコード長の一致
- ▶ バーコードデータの最初の文字の一致



4.6.1 バーコードの連結を編集する

出力シーケンスの編集



- 1) バーコードの連結の編集を開始するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) コードタイプの設定 - (最初の)バーコードのコードタイプについては、[\[16 進値\]](#)バーコードを読み取ります。例えば、Code 39 の場合「4」と「1」を読み取ります。

コードタイプ	シンボル体系	コードタイプ	シンボル体系
40 (@)	ISBT 128		
41 (A)	Code 39		
42 (B)	Italian Pharmacode		
43 (C)	N/A		
44 (D)	Industrial 25	64 (d)	TLC-39 (TCIF Linked Code 39)
45 (E)	Interleaved 25	65 (e)	Trioptic Code 39
46 (F)	Matrix 25		
47 (G)	Codabar (NW7)	67 (g)	Code 11
48 (H)	Code 93		
49 (I)	Code 128		
4A (J)	UPC-E0 / UPC-E1	6A (j)	Composite CC-C
4B (K)	UPC-E(Addon 2 付き)	6B (k)	PDF417
4C (L)	UPC-E(Addon 5 付き)	6C (l)	MicroPDF417
4D (M)	EAN-8	6D (m)	Data Matrix
4E (N)	EAN-8 with Addon 2 (Addon 2 付き)	6E (n)	Maxicode
4F (O)	EAN-8 (Addon 5 付き)	6F (o)	QR Code
50 (P)	EAN-13	70 (p)	US Postnet
51 (Q)	EAN-13 (Addon 2 付き)	71 (q)	US Planet
52 (R)	EAN-13 (Addon 5 付き)	72 (r)	UK Postal
53 (S)	MSI	73 (s)	日本郵便
54 (T)	N/A	74 (t)	Australian Postal
55 (U)	GS1-128 (EAN-128)	75 (u)	Dutch Postal



56 (V)	UPC-A	76 (v)	Composite CC-A/B
57 (W)	UPC-A (Addon 2 付き)	77 (w)	Macro PDF417
58 (X)	UPC-A (Addon 5 付き)	78 (x)	Macro MicroPDF417
		79 (y)	Chinese 25
5A (Z)	N/A	7A (z)	Aztec
5B ([)	GS1 DataBar (RSS)	7B (l)	Micro QR
		7C (l)	USPS 4CB / 1 コード/ インテリジェントメール
		7D (l)	UPU FICS Postal
		7E (～)	UCC Coupon Extended Code

- 3) バーコード長の設定 - (最初の)バーコードの4桁長については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、65 文字のバーコード長の場合は「0065」を、または任意の長さの場合は「0000」を読み取ります。
- 4) 一致する文字設定 - 最初の文字については「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、バーコードの最初の文字と一致する文字「A」の場合は「4」と「1」を読み取るか、任意の文字の場合「00」を読み取ります。
- 5) それぞれのバーコードの設定を完了するには、「(FF)」の「F」バーコードを2回読み取ります。
- 6) バーコードセットの編集を終了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



4.6.2 バーコードの連結をアクティブにする

デフォルトで、バーコードの連結の出力シーケンス編集は適用されていません。

「Enforce Output Sequence (出力シーケンスの強制)」が選択されているとき、スキャナーによって読み取られるすべてのバーコードは、連結の基準に合致する必要があります。データがすべての出力シーケンスの基準に合致しない場合、スキャナーは読み取りを受け入れず、その結果、データは送信されません。

「Apply Output Sequence (出力シーケンスの適用)」が選択されているとき、基準に一致するバーコードのみが連結されます。基準を満たしていないバーコードは、の標準的に処理されます。

注記: 受け入れ可能なバーコードの読み取りが完了すると、スキャナーは短いビープ音(高い)を1回返し、LED インジケータが赤色に点灯し、すぐに消えます(= Good Read)。受け入れ可能なバーコードを読み取った後、LED のインジケータが緑色に点灯し、すぐに消えます(= Good Read)。

*出力シーケンスの無視



出力シーケンスの強制



出力シーケンスの適用



警告: Multi-Barcode Editor を後で無効にした場合、スキャンモードはレーザーモードのままです。レーザーモードが不要な場合、続けて自分の用途にもっとも適したスキャンモードを選択してください。



4.7 特定文字の削除

指定できるのは1文字だけです。、バーコードデータの開始位置から異なる文字が表れるまで、指定された文字が削除されます。例えば、文字「0」(16進数値は「30」)を削除するように指定した場合、1つ以上のゼロがバーコードデータ「012345」および「00012345」から取り去られます。しかし、バーコードデータ「010333」の場合、最初のゼロのみが取り去られます。

特定文字を削除



- 1) 指定された文字を削除するには、上のバーコードを読み取ります。
- 2) 目的の文字については、「[16進値](#)」バーコードをお読みください。例えば、「0」の文字を削除する場合、「3」と「0」を読み取ります。
- 3) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります

4.8 AIM CODE ID

AIM (自動認識・移動通信)コード ID を、データの先頭に付加するか決定します。

*無効



有効



データ編集用のフォーマットを適用する

スキャナーは、ユーザー設定の編集フォーマットにより詳細なデータ編集が可能になります。ユーザー指定のルールにより、処理されたデータ全体がフィールドに分けられます。これらのフィールドはユーザー設定可能な追加フィールドと共に、ホストコンピュータに実際に送信されたデータから成っています。

編集フォーマットを適用すると、設定後のすべてのバーコードの最大出力データ長は 7 KB になります。データ長が 7 KB を超えると、編集フォーマットは有効になりません。

[Prefix Code]	[Code ID]	[Length Code]	[Data]	[Suffix Code]	追加フィールド
デフォルトでなし	デフォルトでなし	デフォルトでなし	バーコード自体	デフォルトで 0x0d	

本章の目次

5.1 編集フォーマットをアクティブにする	151
5.2 編集フォーマットを設定する方法	153
5.3 フォーマットを設定する — データ基準の定義	156
5.4 フォーマットを設定する — データフィールドの定義	169
5.5 フォーマットを設定する — 送信シーケンスの定義	177
5.6 プログラミング例	179



5.1 編集フォーマットをアクティブにする

5.1.1 編集フォーマットをアクティブにする

すでに編集フォーマットが設定されている場合、編集フォーマットを直接適用できます。未設定の場合は、編集フォーマットの設定を開始し、使用するとき編集フォーマットをアクティブにします。

編集フォーマット 1

有効



*無効



編集フォーマット 2

有効



*無効



編集フォーマット 3

有効



*無効



編集フォーマット 4

有効



101307

*無効



101306

編集フォーマット 5

有効



101309

*無効



101308

5.1.2 排他的データ編集

デフォルトで、基準を満たしたバーコードのみが編集フォーマットによって処理されます。基準を満たしていないバーコードは、通常通りに処理されます。

「排他的データ編集」が有効になっているとき、スキャナーが読み取るバーコードはすべて編集フォーマットで処理されます。データが基準に合致しない場合はスキャナーは読み取りせずにその結果、データは送信されません。

はい



101201

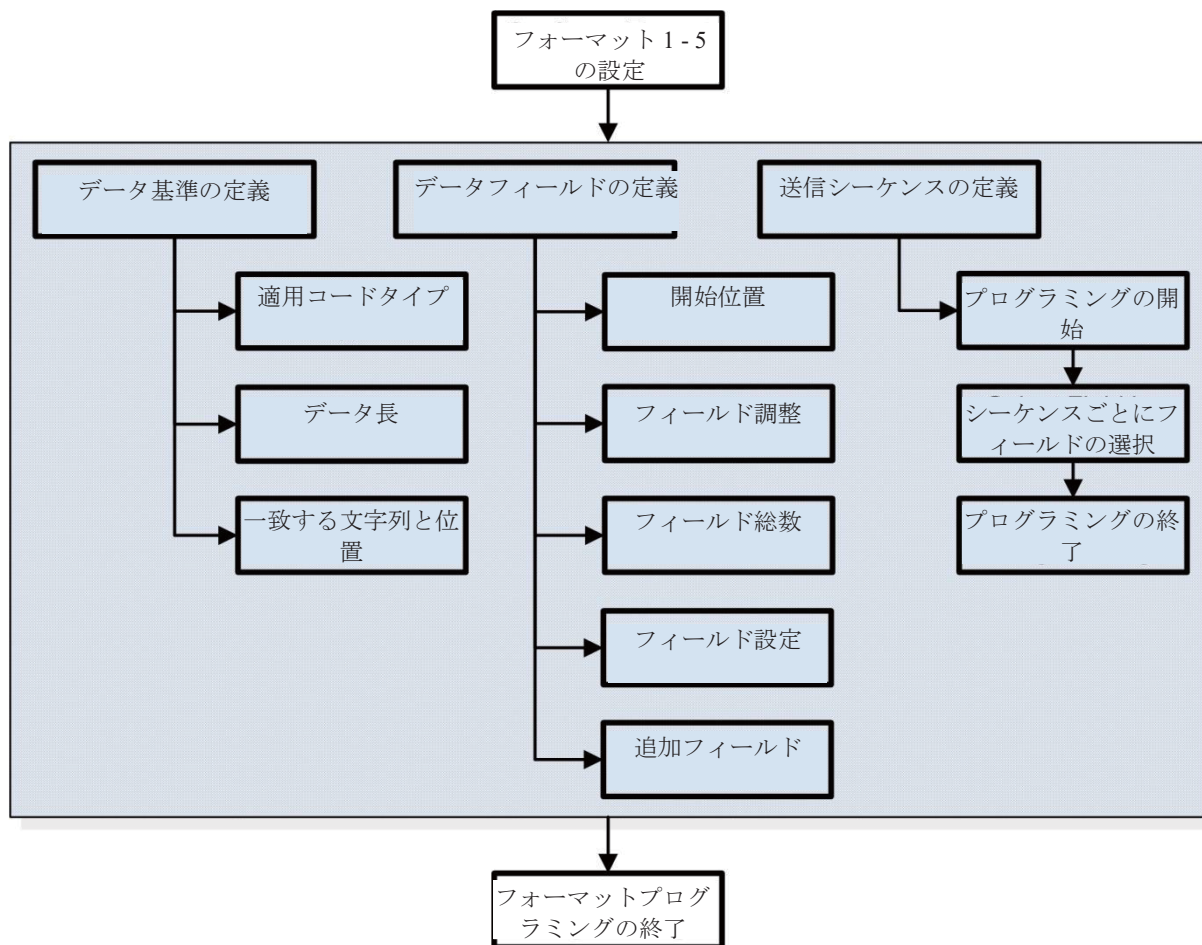
*いいえ



101200



5.2 編集フォーマットを設定する方法



5.2.1 編集フォーマットを選択する

プログラミングフォーマットの開始

1つの編集フォーマット(フォーマット1～5)を選択すると、編集フォーマットに関連するパラメータ(適用可能なコードタイプ、データ長、一致する文字列と位置、開始位置、フィールド調整、フィールド総数、フィールド設定(フィールド区切りルール)、追加フィールド、フィールド送信シーケンス)を設定できます。

フォーマットは、5つまで指定できます。

フォーマット1の設定



フォーマット2の設定



フォーマット3の設定



フォーマット4の設定



フォーマット5の設定



注記: 編集フォーマットのプログラミングを完了する前に、スキャナーに編集フォーマットに関連するもの以外のパラメータのバーコードを読み取らせている場合、プログラミングプロセスは自動的に中止されます。

プログラミングフォーマットの終了

目的のパラメータをすべて設定し終わったら、スキャナーに、本章のすべての偶数ページの下部に記載された「プログラミングフォーマットの終了」を読み取らせる必要があります。

プログラミングフォーマットの終了



5.2.2 編集フォーマットをデフォルト値に戻す

編集フォーマット	デフォルト
適用コードタイプ	すべて
データ長	0 (必要条件なし)
一致する文字列	無効
一致する文字列の位置	なし
開始位置	先頭から
フィールド調整	調整なし
フィールド総数	1
フィールド設定 – フィールド区切りルール	未設定
追加フィールド	なし
フィールド送信シーケンス	F1

デフォルト値に戻す



5.3 フォーマットを設定する — データ基準の定義

スキャナーが読み取っているデータを特定の編集フォーマットで処理できるかどうかをチェックするために、3つの適用条件を設定できます。

注記: 3つの条件がすべて満たされない場合、データ編集を実行することはできません。

5.3.1 適用コードタイプ

デフォルトで、サポートされるすべてのシンボル体系のバーコードが、編集フォーマットによって処理されます。素早く制限するためには、まずすべてを消去してから、目的のシンボル体系を選択してください。

注記: 少なくとも1つのシンボル体系を選択する必要があります。

*すべてに適用



すべて消去



Codabar 用の編集フォーマット

*適用



適用しない



Code 39 用の編集フォーマット

*適用



適用しない



Trioptic Code 39 の編集フォーマット

*適用	 101625
適用しない	 101624

Code 93 用の編集フォーマット

*適用	 101515
適用しない	 101514

Code 128 用の編集フォーマット

*適用	 101517
適用しない	 101516

GS1-128 と GS1 DataBar 用の編集フォーマット

*適用	 101519
適用しない	 101518



ISBT 128 用の編集フォーマット

*適用



適用しない



EAN-8 用の編集フォーマット

*適用



適用しない



EAN-8 Addon 2 用の編集フォーマット

*適用



適用しない



EAN-8 Addon 5 用の編集フォーマット

*適用



適用しない



EAN-13 用の編集フォーマット

*適用	 101533
適用しない	 101532

EAN-13 Addon 2 用の編集フォーマット

*適用	 101535
適用しない	 101534

EAN-13 Addon 5 用の編集フォーマット

*適用	 101537
適用しない	 101536

Italian Pharmacode 用の編集フォーマット

*適用	 101503
適用しない	 101502



Industrial 25 用の編集フォーマット

*適用



適用しない



Interleaved 25 用の編集フォーマット

*適用



適用しない



Matrix 25 用の編集フォーマット

*適用



適用しない



Chinese 25 用の編集フォーマット

*適用



適用しない



MSI 用の編集フォーマット

*適用	 101545
適用しない	 101544

UPC-A 用の編集フォーマット

*適用	 101539
適用しない	 101538

UPC-A Addon 2 用の編集フォーマット

*適用	 101541
適用しない	 101540

UPC-A Addon 5 用の編集フォーマット

*適用	 101543
適用しない	 101542



UPC-E 用の編集フォーマット

*適用	 101521
適用しない	 101520

UPC-E Addon 2 用の編集フォーマット

*適用	 101523
適用しない	 101522

UPC-E Addon 5 用の編集フォーマット

*適用	 101525
適用しない	 101524

UCC Coupon 拡張型コード用の編集フォーマット

*適用	 101623
適用しない	 101622



Code 11 用の編集フォーマット

*適用	 101627
適用しない	 101626

Composite CC-A/B 用の編集フォーマット

*適用	 101629
適用しない	 101628

Composite CC-C 用の編集フォーマット

*適用	 101631
適用しない	 101630

Composite TLC-39 用の編集フォーマット

*適用	 101633
適用しない	 101632

US Postnet 用の編集フォーマット

*適用



101637

適用しない



101636

US Planet 用の編集フォーマット

*適用



101639

適用しない



101638

UK Postal 用の編集フォーマット

*適用



101641

適用しない



101640

日本郵使用の編集フォーマット

*適用



101643

適用しない



101642



Australian Postal 用の編集フォーマット

*適用	 101645
適用しない	 101644

Dutch Postal 用の編集フォーマット

*適用	 101647
適用しない	 101646

USPS 4CB/1 コード/インテリジェントメール用の編集フォーマット

*適用	 101649
適用しない	 101648

UPU FICS Postal 用の編集フォーマット

*適用	 101651
適用しない	 101650



PDF417 用の編集フォーマット

*適用	 101653
適用しない	 101652

MicroPDF417 用の編集フォーマット

*適用	 101655
適用しない	 101654

Data Matrix 用の編集フォーマット

*適用	 101657
適用しない	 101656

Maxicode 用の編集フォーマット

*適用	 101659
適用しない	 101658



QR Code 用の編集フォーマット

*適用	 101661
適用しない	 101660

MicroQR 用の編集フォーマット

*適用	 101663
適用しない	 101662

Aztec 用の編集フォーマット

*適用	 101665
適用しない	 101664



5.3.2 データ長

データ長にはプリフィックス、サフィックス(デフォルトで、0x0d)、長さコードなどを含む必要があります。デフォルトでは、任意の長さ(文字数)のバーコードがデータ編集の対象となります。

値を指定します。

ゼロが両方に与えられているとき、スキャナーは長さ制限を実行しません。

- 1) 以下のバーコードを読み取り最大長または最小長を別々に指定して手順 2～3 に従います。

最大長



最小長



- 2) 目的の長さについては、「[10 進値](#)」バーコード を読み取ります。
- 6) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

5.3.3 一致する文字列と位置

デフォルトで、照合文字列は指定されていないため無効になっています。一致する文字列を指定することで、この機能を有効にできます。最大 4 文字まで許可されます。

照合文字列位置がゼロのとき、スキャナーはバーコードデータの照合文字列の存在のみを確認します。

一致する文字列がバーコードデータのどこから始まるかを示すために、値を指定します。

- 1) バーコードを読み取り、一致する文字列を指定してください。

一致する文字列...



- 7) 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 8) この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。
- 9) バーコードを読み取り、一致する文字列の位置を指定してください。

一致する文字列の位置...



- 10) 目的の位置については「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
- 11) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



5.4 フォーマットを設定する – データフィールドの定義

5.4.1 開始位置

データは次の方向のいずれかで、フィールドに分割されます。

- ▶ 先頭(F1)から末尾へ(F5)
- ▶ 末尾(F1)から先頭へ(F5)



5.4.2 フィールド調整

必要に応じて、すべてのフィールドに等しい長さを適用できます。データが指定より長い場合、自動的に切り詰められます。データが短い場合、フィールドに「スペース」(0x20)が追加されます。



- 1) 長さによってフィールドを調整するには、上のバーコードを読み取ります。
- 12) 目的のフィールド長については、[10 進値](#) バーコードを読み取ります。
- 13) この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



5.4.3 フィールド総数

データは多くても 6 つのフィールドに分割され、そのそれぞれに F1～F6 の番号が付けられます。しかし、F1～F5 のみが設定可能です。

フィールドの総数は正しく指定する必要があります。編集フォーマットに対して 3 つのフィールドが設定される場合、F3 の後でデータ文字が F4 に自動的に割り当てられます。可変長のデータが編集フォーマットにより処理されるときは特に、この機能がとても役立ちます。

*1 つのフィールド



2 つのフィールド



3 つのフィールド



4 つのフィールド



5 つのフィールド



6 つのフィールド



注記: 設定可能なフィールド数は、指定されたフィールドの総数より常に 1 つ少ない数です。設定された最後のフィールドを超える余分なデータは、次のフィールドに自動的に割り当てられます。



5.4.4 フィールド設定

編集フォーマットの対象となるフィールドは、フィールド区切り文字列または指定されたフィールド長のいずれかを使用して、ユーザー指定の規則によるフィールドに分割されます。

区切り文字列で

フィールド区切り文字列を指定します。最大2文字まで許可されます。スキャナーは、データ内のこの特定の文字列の出現を調べます

- ▶ デフォルトで、この文字列はフィールドに含まれます。

長さによって

または、フィールド長を指定することができます。スキャナーは、指定した次の文字数をフィールドに割り当てます。

フィールド1 設定

1. 指定した区切り文字列によりフィールド1を分割するには、以下のバーコードを読み取ります

フィールド区切り文字列
を選択してフィールド1
を分割する...



2. 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。
4. フィールド区切り文字列がフィールドで不適の場合、「区切り文字列の廃棄」バーコードを読み取ります。

*区切り文字列を含める



区切り文字列を廃棄



特定の区切り文字列でフィールドを分割されない場合、指定した長さによって分割することができます。



1. 長さによってフィールド 1 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります。

長さによって フィ
ールド 1 を分割



2. 目的のフィールド長については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

フィールド 2 設定

1. 指定した区切り文字列によりフィールド 2 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります

フィールド区切り文字列
を選択してフィールド 2
を分割する...



2. 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。
4. フィールド区切り文字列がフィールドで不適当な場合、「区切り文字列の廃棄」バーコードを読み取ります。

*区切り文字列を含める



区切り文字列を廃棄



特定の区切り文字列でフィールドを分割されない場合、指定した長さによって分割することができます。

1. 長さによってフィールド 2 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります。

長さによって フィ
ールド 2 を分割



2. 目的のフィールド長については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



フィールド 3 設定

1. 指定した終了文字列によりフィールド 3 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります

フィールド区切り文字列
を選択してフィールド 3
を分割する...



2. 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。
4. フィールド区切り文字列がフィールドで不適な場合、「区切り文字列の廃棄」バーコードを読み取ります。

*区切り文字列を含める



区切り文字列を廃棄



特定の区切り文字列でフィールドを分割されない場合、指定した長さによって分割することができます。

1. 長さによってフィールド 3 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります。

長さによって フィ
ールド 3 を分割



2. 目的のフィールド長については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

フィールド 4 設定

1. 指定した終了文字列によりフィールド 4 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります

フィールド区切り文字列
を選択してフィールド 4
を分割する...



2. 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。
4. フィールド区切り文字列がフィールドで不適な場合、「区切り文字列の廃棄」バーコードを読み取ります。



***区切り文字列を含める**



区切り文字列を廃棄



特定の区切り文字列でフィールドを分割されない場合、指定した長さによって分割することができます。

1. 長さによってフィールド 4 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります。

長さによって フィ
 ールド 4 を分割



2. 目的のフィールド長については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

フィールド 5 設定

1. 指定した終了文字列によりフィールド 5 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります

フィールド区切り文字列
を選択してフィールド 5
を分割する...



2. 目的の文字列については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。
4. フィールド区切り文字列がフィールドで不適な場合、「区切り文字列の廃棄」バーコードを読み取ります。

***区切り文字列を含める**



区切り文字列を廃棄



特定の区切り文字列でフィールドを分割されない場合、指定した長さによって分割することができます。

1. 長さによってフィールド 5 を分割するには、以下のバーコードを読み取ります。



長さによって フィールド 5 を分割



2. 目的のフィールド長については、「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。

追加フィールド

それぞれの編集フォーマットに対して 5 つまでフィールドを追加で作成できます。それぞれのフィールドには AF1～AF5 の数字が付けられます。

- ▶ 「BT HID」、「USB HID」、「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、キータイプとキーステータスが適用されます。キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを適用するかどうかを決定できます。

キータイプ		キーステータス
スキャンコード	スキャンコード値は 2 つまで許可されます。	N/A
通常キー	最大 4 文字列まで許可されます。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ Shift の追加 ▶ 左 Ctrl の追加 ▶ Alt の追加 ▶ 右 Ctrl の追加 ▶ 右 Alt の追加 キーボードウェッジ表を参照してください。

1. 一度に 1 つずつ追加フィールドを指定するには、以下のバーコードを読み取ります。

追加フィールド 1...



追加フィールド 2...



追加フィールド 3...



追加フィールド 4...



追加フィールド 5...



2. 目的の追加フィールドについては、「[16 進数値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

5.4.5 休止フィールド設定

休止フィールド時間

休止時間を(1～16)に制限できます。デフォルトでは、1 秒に設定されています。

休止フィールド時間
1～16 秒 (*1)

1. 休止フィールドの時間を指定するには、上のバーコードを読み取ります。(デフォルトでは、1 に設定されています。)
2. 「[10 進値](#)」バーコードを読み取ります。例えば、休止フィールド時間を 10 秒に設定する場合、「1」と「0」を読み取ります。
3. この設定を終了するには、同じページで「確認」バーコードを読み取ります。



5.5 フォーマットを設定する — 送信シーケンスの定義

データフィールドと追加フィールドを設定した後、最終データから成るこれらのフィールドの送信シーケンスをプログラムできるようになります。このフィールド送信シーケンスは目的の順序で割り当てることが可能で、フィールドも何度でも割り当てることができます。

注記: 最大 12 のフィールドを割り当てることができます。

- 1) フィールド送信シーケンスのプログラミングから始めるには、「開始」バーコードを読み取ります。

プログラミングの開始...



- 2) 目的のフィールドと追加フィールドを読み取ることで、送信シーケンスをプログラムします。

フィールド 1



フィールド 2



フィールド 3



フィールド 4



フィールド 5



フィールド 6



追加フィールド 1



追加フィールド 2



追加フィールド 3



追加フィールド 4



追加フィールド 5



休止フィールド



ヌル文字フィールド



3) この設定を完了するには、「終了」バーコードを読み取ります。

プログラミングの終了...



5.6 プログラミング例

5.6.1 例Ⅰ

10 番目の文字から 19 番目の文字までのデータを抽出引き出します...

編集フォーマットを次のように設定します。

1. 「セットアップに入る」バーコードを読み取って設定モードに入ります。
2. 「フォーマット 1 の設定」バーコードを読み取ります。
3. 適用可能なコードタイプに対して、「すべて消去」と「Code 128」を読み取ります。
4. 「3 つのフィールド」バーコードを読み取ります。
5. 「長さによってフィールド 1 を分割」バーコードを読み取り、長さを 9 に設定します。
フィールド 1 のデータは 1 番目の文字から始まって 9 番目の文字まで進みます。
6. 「長さによってフィールド 2 を分割」バーコードを読み取り、長さを 10 に設定します。
フィールド 2 のデータは 10 番目の文字から始まって 19 番目の文字まで進みます。
7. 「開始(プログラミング)」バーコードを読み取って、送信シーケンスをプログラムします。
8. 「フィールド 2」バーコードを読み取ります。
9. 送信シーケンス設定を完了するには、「終了」バーコードを読み取ります。
10. 編集フォーマット 1 の設定を完了するには、「プログラミングフォーマットの終了」バーコードを読み取ります。
11. 編集フォーマット 1 を Code 128 に適用するには、「フォーマット 1 を有効にする」バーコードを読み取ります。
12. 設定モードを終了するには、「更新」バーコードを読み取ります。

5.6.2 例Ⅱ

バーコードから日付コード、項目番号、数量情報を抽出

バーコードのデータはこのようにエンコードされています。

- ▶ 1 番目の文字から 6 番目の文字までは、日付コードです。
- ▶ 7 番目の文字からダッシュ「-」文字までは、項目番号です。
- ▶ ダッシュ「-」文字の後に数量情報が続きます。

データはこのように送信されます。

- ▶ 項目番号が最初に送られ、次に TAB 文字、次に日付コード、別の TAB 文字が続き、そして数量情報で終わります。

編集フォーマットを次のように設定します。



- 1 「セットアップに入る」バーコードを読み取って設定モードに入ります。
- 2 「フォーマット 2 の設定」バーコードを読み取ります。
- 3 「3 つのフィールド」バーコードを読み取ります。
- 4 「長さによってフィールド 1 を分割」バーコードを読み取り、長さを 6 に設定します。
フィールド 1 のデータは 1 番目の文字から始まって 6 番目の文字まで進みます。
- 5 「フィールド区切り文字列を選択してフィールド 2 を分割する」バーコードを読み取り、ダッシュ「-」文字を使用します。
フィールド 2 のデータは 7 番目の文字から始まり、ダッシュ「-」文字で終わります。
- 6 「追加フィールド 1」バーコードを読み取り、フィールド用のタブ文字を使用します。
- 7 「開始(プログラミング)」バーコードを読み取って、送信シーケンスをプログラムします。
- 8 「フィールド 2」、「追加フィールド 1」、「フィールド 1」、「追加フィールド 1」、「フィールド 3」バーコードを読み取ります。
- 9 送信シーケンス設定を完了するには、「終了」バーコードを読み取ります。
- 10 編集フォーマット 1 の設定を完了するには、「プログラミングフォーマットの終了」バーコードを読み取ります。
- 11 編集フォーマット 2 をすべてのコードタイプに適用するには、「フォーマット 2 を有効にする」バーコードを読み取ります。
- 12 設定モードを終了するには、「更新」バーコードを読み取ります。



ファームウェアのアップグレード

RS232 を使う

- 1) RS-232 ケーブルで PC と接続し、電源に接続します。
- 2) ダウンロードインターフェースとして RS-232 を使用するには、次のバーコードを順番に読み取ります。

セットアップに入る



クレードル RS-232 をア
クティブにする



100001

115200 bps



100080

更新



109999

- 3) ダウンロードを開始するには、次のバーコードを順番に読み取ります。スキャナーからビープ音が鳴り、ダウンロードの準備ができたことを知らせます。

セットアップに入る



ダウンロード

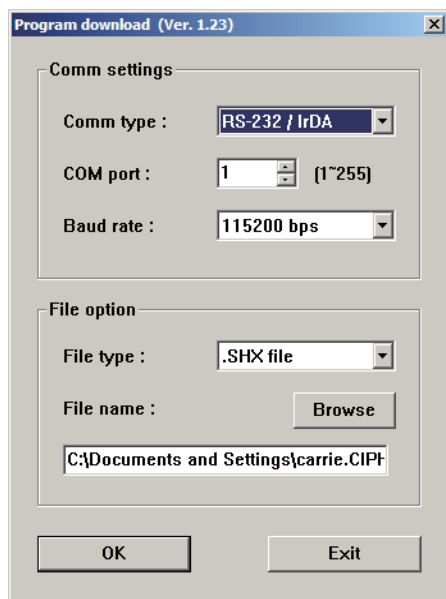


109997

- 4) コンピュータでダウンロードユーティリティ「ProgLoad.exe」を実行します。

カーネルプログラム	ユーザープログラム
K150X_V*.shx	STD150X_V*.shx





- ▶ 通信設定の場合、RS-232 or USB Virtual COM インターフェース用の「RS-232」と正しい COM ポートを選択します。
- ▶ RS-232 の場合、ボーレートについては 115200 bps を、USB Virtual COM については、ボーレート設定を無視します。
- ▶ ファイルオプションの場合、[Browse(閲覧)] をクリックしてファームウェア更新用ターゲットファイルを選択します。
- ▶ [OK]をクリックします。

5) カーネルをアップグレードした後、スキャナーを手動で再起動する必要があります。

ユーザープログラムをアップグレードした後、ダウンロードが正常に完了していれば、スキャナーは自動的に再起動します。

注記: 出力インターフェースは、手順 3 (= RS-232 または USB Virtual COM)で指定したように変わりません。RS-232 の場合、ボーレート設定はまだ 115200 bps のままです!



USB VIRTUAL COM を使う

- 1) USB ケーブルでスキャナーとコンピューターを接続します。
 - ▶ USB Virtual COM を初めて使う場合はドライバーを前もってインストールする必要があります。
- 2) Windows プラットフォームで、USB VCOM_CDC をダウンロードインターフェースとして使うために以下のバーコードを読み取って下さい。

セットアップに入る



ダイレクト
USB VCOM_CDC をアクテ
ィブにする



100010

更新



109999

Windows プラットフォームでない場合は以下のバーコードを読み込んで下さい。

セットアップに入る



ダイレクト
USB VCOM をアクティブ
にする



100008

更新



109999

- 3) 以下のバーコードを読み込みスキャナーがダウンロードモードに移行します。スキャナーがビープ音で応答します。

セットアップに入る



ダウンロード



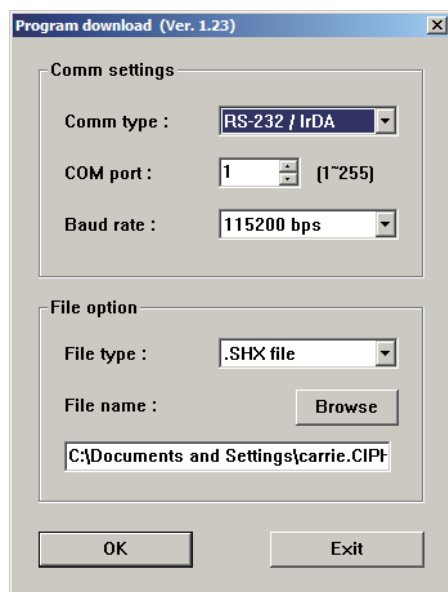
109997



更新

4) ダウンロードユーティリティ“ProgLoad.exe”をコンピュータ上で実行します

カーネルプログラム	ユーザープログラム
K150x_V*.shx	STD150x_V*.shx



- ▶ 通信設定の場合、RS-232 or USB Virtual COM インターフェイス用の「RS-232」と正しいCOM ポートを選択します。
- ▶ RS-232 の場合、ボーレートについては 115200 bps を、USB Virtual COM については、ボーレート設定を無視します。
- ▶ ファイルオプションの場合、[Browse(閲覧)] をクリックしてファームウェア更新用ターゲットファイルを選択します。
- ▶ [OK] をクリックします。

5) カーネルをアップグレードした後、スキャナーを手動で再起動する必要があります。

ユーザープログラムをアップグレードした後、ダウンロードが正常に完了していれば、スキャナーは自動的に再起動します。

注記: 出カインターフェースは、手順2 (= RS-232 または USB Virtual COM) で指定したように変わりません。RS-232 の場合、ボーレート設定はまだ 115200 bps のままです!



付表2

ホストシリアルコマンド

シリアルコマンド

D

目的	スキャナーを無効にします。
備考	“D”

E

目的	スキャナーを有効にします。
備考	“E”

#@ nnnnnn <CR>

目的	スキャナーを設定します。
備考	nnnnnn - 6 桁のコマンドパラメータ。 例えば、「109952」は現在の Code ID 設定を列挙します。



List Page 3

“0x23” + “0x40” + “0x31” + “0x30” + “0x39” + “0x39” + “0x35” + “0x32” + “0x0d”

シリアルコマンド

注記: スキャナーを設定した後、シリアルコマンド「#@109999」を送信して設定を保存できます。

#@ - - - - <CR>

目的	スキャナーを停止します。
備考	“0x23” + “0x40” + “0x2d” + “0x2d” + “0x2d” + “0x2d” + “0x0d”

#@ <CR>

目的	操作を再開します。
備考	“0x23” + “0x40” + “0x2e” + “0x2e” + “0x2e” + “0x2e” + “0x0d”

#@///// <CR>

目的	ビーブ音に応答します。
備考	“0x23” + “0x40” + “0x2f” + “0x2f” + “0x2f” + “0x2f” + “0x0d”



#@TRIGOFF<CR>

目的	ソフトウェアトリガーを無効にする仕方
備考	“0x23” + “0x40” + “0x54” + “0x52” + “0x49” + “0x47” + “0x4f” + “0x46” + “0x46” + “0x0d”

#@TRIGON<CR>

目的	ソフトウェアトリガーを有効にする仕方
備考	“0x23” + “0x40” + “0x54” + “0x52” + “0x49” + “0x47” + “0x4f” + “0x4e” + “0x0d”

#@RDSN<CR>

目的	シリアル番号を読み取る
備考	“0x23” + “0x40” + “0x52” + “0x44” + “0x53” + “0x4E” + “0x0D”

#@BEEP、nn<CR>

目的	指定した回数(00～99)だけスキャナーのビーブ音を鳴らします (00 は作業を停止)。ビーブ時間の長さは Good Read ビーブ設定の 継続時間に基づき、一定間隔は 100ms です。
備考	nn - 2 桁のコマンドパラメータ 例えば、「#@BEEP,09」は 9 回スキャナーのビーブ音を鳴らします。 “0x23” + “0x40” + “0x42” + “0x45” + “0x45” + “0x50” + “0x2c” + “0x30” + “0x39” + “0x0d”

#@RLED、nn<CR>

目的	指定した回数(00～99)だけスキャナーの赤色 LED インジケータを 点滅させます(00 は作業を停止)。点滅時間の長さは Good Read LED 持続時間設定に基づいており、2 回の点滅の 一定間隔は 200ms です。
備考	nn - 2 桁のコマンドパラメータ 例えば、「#@RLED,09」は 9 回スキャナーを点滅させます。 “0x23” + “0x40” + “0x52” + “0x4c” + “0x45” + “0x44” + “0x2c” + “0x30” + “0x39” + “0x0d”

#@GLED、nn<CR>

目的	指定した回数(00～99)だけスキャナーの緑色 LED インジケータを 点滅させます(00 は作業を停止)。点滅時間の長さは Good Read LED 持続時間設定に基づいており、2 回の点滅の 一定間隔は 200ms です。
備考	nn - 2 桁のコマンドパラメータ 例えば、「#@GLED,09」は 9 回スキャナーを点滅させます。 “0x23” + “0x40” + “0x47” + “0x4c” + “0x45” + “0x44” + “0x2c” + “0x30” + “0x39” +



“0x0d”

例

ホストコンピュータで HyperTerminal.exe を実行し、RS-232、USB Virtual COM または BT SPP を介してスキャナーにシリアルコマンドを送信できます。

- ▶ スキャナーを直ちに停止する場合 –

D

- ▶ スキャナーを再開する場合 –

E

- ▶ スキャナーがビーパーの音量を「中」に変更して鳴らす場合 –

#@101011<CR>

#@/////<CR>

- ▶ スキャナーがビーパーの音量を「小」に変更して鳴らす場合 –

#@101010<CR>

#@/////<CR>

- ▶ スキャナーがビーパーの周波数を 8 kHz (Good Read ビープ音のみ)に変更して鳴らす場合 –

#@101001<CR>

#@/////<CR>

- ▶ スキャナーがビーパーの長さを最長(Good Read ビープ音のみ)に変更して鳴らす場合 –

#@101008<CR>

#@/////<CR>

- ▶ スキャナーが設定を保存する場合、シリアルコマンド「#@109999」を送信します –

#@101011<CR>

#@109999<CR>

- ▶ スキャナーがシリアル番号を読み取って、ビープ音を鳴らす場合 –

#@RDSN<CR>

#@/////<CR>

- ▶ スキャナーが 9 回ビープ音を鳴らす場合 –

#@BEEP,09<CR>

- ▶ スキャナーの LED インジケータが赤色に 9 回点滅する場合 –

#@RLED,09<CR>

- ▶ スキャナーの LED インジケータが緑色に 9 回点滅する場合 –

#@GLED,09<CR>

注記: (1) RS-232 または USB Virtual COM の場合、最初にクレードルに接続するスキャナーのみを設定できます。スキャナーを確認するには、シリアルコマンドを送信して返ってきたビープ音で確かめることができます。

(2) BT SPP の場合、最大 7 台のスキャナーを同時に設定できます。



キーボードウェッジ表

以下の表は、デフォルトでスキャナーに適用されている特殊なキーボードウェッジコードを示すものです。このシリアルキーボードを迂回する決定をする場合、次のページの表を参照してください。

特殊なキーボードの「Apply(適用)」									
	0	1	2	3	4	5	6	7	8
0		F2	SP	0	@	P	`	p	・
1	INS	F3	!	1	A	Q	a	q	・
2	DLT	F4	”	2	B	R	b	r	・
3	Home	F5	#	3	C	S	c	s	・
4	End	F6	\$	4	D	T	d	t	・
5	Up	F7	%	5	E	U	e	u	・
6	Down	F8	&	6	F	V	f	v	・
7	Left	F9	'	7	G	W	g	w	・
8	BS	F10	(8	H	X	h	x	・
9	HT	F11)	9	I	Y	i	y	・
A	LF	F12	*	:	J	Z	j	z	
B	Right	ESC	+	;	K	[k	{	
C	PgUp	Exec	,	<	L	¥	l		
D	CR	CR*	-	=	M]	m	}	
E	PgDn		.	>	N	^	n	~	
F	F1		/	?	O	_	o	Dly	ENTER*

注記: (1) ①～⑨: テンキーボードの桁数。
(2) CR*/ENTER*: テンキーパッドの ENTER キー。



特殊なキーボードの「Bypass(迂回)」									
	0	1	2	3	4	5	6	7	8
0			SP	0	@	P	`	p	
1			!	1	A	Q	a	q	
2			”	2	B	R	b	r	
3			#	3	C	S	c	s	
4			\$	4	D	T	d	t	
5			%	5	E	U	e	u	
6			&	6	F	V	f	v	
7			'	7	G	W	g	w	
8	BS		(8	H	X	h	x	
9	HT)	9	I	Y	i	y	
A	LF		*	:	J	Z	j	z	
B		ESC	+	;	K	[k	{	
C			,	<	L	¥	l		
D	CR		—	=	M]	m	}	
E			.	>	N	^	n	~	
F			/	?	O	_	o	Dly	



キータイプ およびステータス

キータイプ

「BT HID」、「USB HID」または「キーボードウェッジ」がインターフェースで設定されている場合、キータイプとキーステータスが利用できるようになります。

*通常



109926

スキャンコード



109936

キーステータス

キータイプに対して「通常キー」が選択されているとき、キーステータスを変更するかどうかを決定します。

Shift の追加



109930

左 Ctrl の追加



109931

右 Ctrl の追加



109933

左 Alt の追加



109932

右 Alt の追加



109934

更新



中止



例

キータイプ = 通常

例えば、プリフィックスコードのように「!」の文字をプログラムしたい場合:

1. 「プリフィックスの設定」バーコードを読み取ります。
2. 「2」と「1」については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
3. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

キータイプ = SCAN CODE(スキャンコード)

例えば、プリフィックスコードのように「a」(= スキャンコード表の「1C」)の文字をプログラムしたい場合:

1. 「プリフィックスの設定」バーコードを読み取ります。
2. 「Scan Code」バーコードを読み取ります。
3. 「1」と「C」については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
4. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

キータイプ = 通常 + キーステータス = SHIFT

例えば、プリフィックスコードのように「!(= キーボードの「Shift」 + 「1」)の文字をプログラムしたい場合:

1. 「プリフィックスの設定」バーコードを読み取ります。
2. 「Shift の追加」バーコードを読み取ります。
3. 「3」と「1」については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります。
4. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。

キータイプ = 通常 + キーステータス = CTRL

例えば、プリフィックスコードのように「Ctrl+A」と「Ctrl+\$」の文字をプログラムしたい場合:

1. 「プリフィックスの設定」バーコードを読み取ります。
2. 「左 Ctrl の追加」バーコードを読み取ります。
3. 「4」、「1」(= 「A」)については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります for .
4. 「左 Ctrl の追加」バーコードを読み取ります。
5. 「2」、「4」(= 「\$」)については、「[16 進値](#)」バーコードを読み取ります 。
6. この設定を完了するには、「確認」バーコードを読み取ります。



付表4

N 進法

10 進法

10 進



値の確認



更新



中止



16 進法

16 進



値の確認

確認



109994

更新



中止



ASCII 表

	0	1	2	3	4	5	6	7	
0		DLE	SP	0	@	P	`	p	
1	SOH	DC1	!	1	A	Q	a	q	
2	STX	DC2	"	2	B	R	b	r	
3	ETX	DC3	#	3	C	S	c	s	
4	EOT	DC4	\$	4	D	T	d	t	
5	ENQ	NAK	%	5	E	U	e	u	
6	ACK	SYN	&	6	F	V	f	v	
7	BEL	ETB	'	7	G	W	g	w	
8	BS	CAN	(8	H	X	h	x	
9	HT	EM)	9	I	Y	i	y	
A	LF	SUB	*	:	J	Z	j	z	
B	VT	ESC	+	;	K	[k	{	
C	FF	FS	,	<	L	¥	l		
D	CR	GS	-	=	M]	m	}	
E	SO	RS	.	>	N	^	n	~	
F	SI	US	/	?	O	_	o	DEL	



付表5

キーボードタイプ ワンスキャン

キーボードウェッジ

PCAT (US)



#@Kw0001#

PCAT (French)



#@Kw0002#

PCAT (German)



#@Kw0003#

PCAT (Italian)



#@Kw0004#

PCAT (Swedish)



#@Kw0005#

PCAT (Norwegian)



#@Kw0006#

PCAT (UK)



#@Kw0007#

更新



中止



PCAT (Belgium)



#@Kw0008#

PCAT (Spanish)



#@Kw0009#

PCAT (Portuguese)



#@Kw0010#

PS55 A01-1



#@Kw0011#

PS55 A01-2 (Japanese)



#@Kw0012#

PS55 A01-3



#@Kw0013#

PS55 001-1



#@Kw0014#

PS55 001-81



#@Kw0015#

PS55 001-2



#@Kw0016#



PS55 001-82



#@Kw0017#

PS55 001-3



#@Kw0018#

PS55 001-8A



#@Kw0019#

PS55 002-1, 003-1



#@Kw0020#

PS55 002-81, 003-81



#@Kw0021#

PS55 002-2, 003-2



#@Kw0022#

PS55 002-82, 003-82



#@Kw0023#

PS55 002-3, 003-3



#@Kw0024#

PS55 002-8A, 003-8A



#@Kw0025#

更新



中止



IBM 3477 Type 4 (Japanese)



#@Kw0026#

PS2-30



#@Kw0027#

IBM 34XX/319X, Memorex Telex 122 Keys



#@Kw0028#

User-defined table



#@Kw0029#

PCAT (Turkish)



#@Kw0030#

PCAT (Hungarian)



#@Kw0031#

PCAT (Swiss German)



#@Kw0032#

PCAT (Danish)



#@Kw0033#



ダイレクト USB HID

PCAT (US)



PCAT (French)



PCAT (German)



PCAT (Italian)



PCAT (Swedish)



PCAT (Norwegian)



PCAT (UK)



PCAT (Belgium)



PCAT (Spanish)

更新



中止





#@DH0072#

PCAT (Portuguese)



#@DH0073#

PS55 A01-2 (Japanese)



#@DH0074#

User-defined table



#@DH0075#

PCAT (Turkish)



#@DH0076#

PCAT (Hungarian)



#@DH0077#

PCAT (Swiss German)



#@DH0078#

PCAT (Danish)



#@DH0079#



更新



中止

